

沼津高専だより

第114号

平成31年3月7日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭 人文字



目次

☆沼津工業高等専門学校の三つのポリシー	… 3
☆校長・副校長・校長補佐から（平成30年度総評）	
沼津高専のグローバル化	学校長 藤本 晶 … 7
MCCに基づく次の時代の技術者教育	副校長（教務主事） 小林 隆志 … 7
平成30年度を振り返って	校長補佐（学生主事） 高野 明夫 … 8
寮生会に支えられた1年	校長補佐（寮務主事） 川上 誠 … 8
協同を活かしてさらなる前進を	校長補佐（専攻科長） 稲津 晃司 … 9
☆KOSEN（高専）4.0イニシアティブ	
KOSEN（高専）4.0イニシアティブの継続	学校長 藤本 晶 … 9
沼津高専発 人財育成と地域貢献を実現する技術イノベーション	テクノセンター長 遠山 和之 … 10
「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」について	国際交流センター長 小林 美学 … 10
☆各学科から（平成30年度総評）	
心の支え	機械工学科長 三谷祐一朗 … 10
1年を振り返って	電気電子工学科長 西村 賢治 … 11
平成30年度を振り返って	電子制御工学科長 鄭 萬溶 … 11
1年を振り返って	制御情報工学科長 芹澤 弘秀 … 12
平成30年度を振り返って	物質工学科長 大川 政志 … 12
年度末に当たって	教養科長 佐藤 誠 … 13
☆国際交流センターから	
沼津高専の国際化に向けて	国際交流センター長 小林 美学 … 13
沼津高専で学ぶ留学生達	留学生支援委員長 川上 誠 … 13
海外交流委員会報告	海外交流委員長 鈴木 久博 … 14
☆人事異動について	
平成30年度人事異動	… 15
☆部活動	
第53回「全国国立高等専門学校体育大会」入賞者	… 15
第56回「東海地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧	… 15
第5回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者	… 16
☆行事・コンテスト・その他イベント	
体育祭：viva！運動会！viva！沼津高専！	体育祭実行委員長 電子制御工学科4年 土屋 優貴 … 16
	機械工学科4年 秋山亜久里
高専祭：第53回高専祭-Bridge-	高専祭実行委員長 物質工学科4年 石塚美音野 … 17
知財の寺子屋活動報告：地域特性を知財創造教育のキャンパスに!!	電気電子工学科教授 大津 孝佳 … 17
ロボットコンテスト2018：	
全国大会出場に向けて～ロボコン部の挑戦～	ロボコン部顧問 電子制御工学科 青木 悠祐 … 18
高専ロボコンへの取り組み	ロボコン部部长 電子制御工学科4年 古川 陽太 … 18
東海北陸地区英語プレゼンテーションコンテスト：わずか5分。されど ……	担当 小田 昇平 … 19
☆退職教職員から	
昔話	教養科 西垣 誠一 … 20
教員生活を振り返って	制御情報工学科 吉野龍太郎 … 20
「ありがとうございました」	総務課課長補佐 神田 貴由 … 21
定年退職を迎えて	学生課課長補佐 室伏 啓二 … 21
☆卒業生・修了生から	
高専で学んだもの	機械工学科5年 乗松 慧生 … 21
飛びたがりのさなぎ	電気電子工学科5年 高橋 広樹 … 22
「高専をやめるのをやめて」みたら …	新機能材料工学コース2年 村松 央教 … 22
☆私の高専時代	
私の高専時代	電気工学科17期 遠山 和之 … 23
☆学生の研究活動（2018.4.1～2019.3.31）	… 23
☆平成30年度卒業生・修了生進路一覧	… 32
☆教育後援会から	教育後援会会長 大川 宏和 … 34
☆同窓会から	同窓会会長 木 戸 実 … 35
☆お知らせ	
海外留学プログラムについて	… 35
平成31年度前期分授業料の免除および徴収猶予について	… 36
各種奨学金について	… 36
沼津高専意見箱について	… 38
平成31年度（2019年4月～2020年3月）行事予定表	… 38

沼津工業高等専門学校の中のポリシー

平成27年度末の学校教育法施行規則（文部科学省令）の改正により、平成29年度より全ての大学・高等専門学校は3つの方針を策定し公表することとされております。このポリシーを基にして、教育の改革・改善に向けた検討を進めます。三つのポリシーを周知徹底するために、ここに掲載いたします。

本科

【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定の方針)

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル（以下「Level」という。）Level 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。

- E 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

【アドミッション・ポリシー】(入学者の受入れの方針)

以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能)
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力)
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

専攻科

【ディプロマ・ポリシー】(修了認定の方針)

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
 - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
 - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
 - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
 - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力

(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）」までを身につける。

【コース別カリキュラム・ポリシー】（コース別の教育課程編成・実施の方針）

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース
機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1, A-2, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (2) 新機能材料工学コース
機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (3) 医療福祉機器開発工学コース
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2, C-1, C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【アドミッション・ポリシー】（入学者の受入れの方針）

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。

校長・副校長・校長補佐から（平成30年度総評）



沼津高専のグローバル化

学校長
藤本 晶

ほとんどの企業が海外に生産や販売等の拠点を持つようになり、海外に出向く機会は格段に増えています。長期間海外に駐在することも珍しくありません。そのような中、現地の風習や文化、そして言語を理解することが重要になります。現代人にとって国際化は避けて通れないのです。

技術の世界でも同じです。技術や製品について海外の人と議論することが日常茶飯事になっています。高度な技術や高いスキルを持っていても、それを伝えることが出来なければ、宝の持ち腐れになりかねません。技術者にも高いコミュニケーションスキルが求められるのです。

このスキルを磨くためには、海外の人との交流に慣れること、そして共通語である英語を使えることが必要になります。海外との交流を増やすには、外国人留学生を増やすと同時に海外に出向く機会も増やす必要があります。また英語に慣れるためには、英語圏の人との交流も

必要です。

海外との交流では、既に学生の相互交流を続けているクモ工科大に加えて、ウソク大学とも交流協定を結びました。クモ工科大とは1月26日に学生の合同研究発表会「Japan-Korea Technical Symposium in Numazu 2019」をプラサヴェルデで開催し、学生同士が主に英語を使って交流を深めました。

また英語圏の人とも交流ができるように、沼津市の姉妹都市である米国Kalamazoo市にあるWestern Michigan Universityとも交流協定を結びました。3月には交流の第一陣として、語学研修を主な目的として5名の沼津高専の学生がWestern Michigan Universityに出向く予定です。

また平成31年度からは、4年生全員が海外へ学科別研修旅行に出向くことになっています。これによって卒業までに学生全員が、一度は日本を離れた経験を持つこととなります。海外に出向くことで、コミュニケーション力と異文化理解の必要性、重要性を実感してくれるものと考えます。

沼津高専には現在7名の留学生在籍していますが、まだまだ少ないと考えています。寮の問題等もありますが、環境を整えつつ、より大勢の留学生を受入れたいと考えています。同じキャンパス、同じ教室で色々な国の学生と一緒に学ぶような学校を目指そうと思います。



MCCに基づく次の時代の技術者教育

副校長（教務主事）
小林 隆志

沼津高専が高専の一期校として昭和37年に設立され、57年が過ぎようとしています。今年は平成から新しい元号に変わる節目の年です。高専は昭和の時代を27年間、平成の時代をちょうど30年間過ごしたことになります。この間、日本経済は昭和の時代には高度成長を遂げた一方、平成の時代にはバブル崩壊後デフレが進行し、失われた20年とも言われる大きな変化を経験しました。また、東日本大震災とともに福島原発事故という未曾有の事態も発生しました。少子化も進行し、平成初期には200万人を超えていた15歳人口も今では約110万人と大きく減少しました。このような大きな変化の中で、沼津高専は社会からの高い評価を得て着実に技術者教育を実践し、日本の産業界を支える有為な卒業生を送り出してきました。

新しい元号とともに迎える新しい時代には、IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータなどのモノと情

報が高度に融合した超スマート社会Society 5.0へと変革を遂げようとしています。

この3月に卒業を迎えられた皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんはこのような記念すべき節目の年に大きく変化する社会に飛び立とうとしています。急速な技術革新の中で将来の予測が困難な時代ですが、高専での学びと経験を基礎として、新しい次の時代を切り拓く技術者として活躍されることを願っています。在学生の皆さんも、日々研鑽を積み、新しい時代に立ち向かう準備をしてください。

急速に変化する社会環境に追従すべく、高専も教育改革を進めています。高専機構ではモデルコアカリキュラム（MCC）という全国の高専学生が学習すべき内容を定め、今年度完全実施しました。沼津高専でもMCCを基礎として、さらに沼津高専独自の特徴ある新しい時代の技術者教育を模索し、実践してまいります。

今年度、沼津高専の教育の実施状況に関して、外部機関による認証評価を受審しました。学修者（学生）本位の教育システムが構築され、実践されているかが重要な評価ポイントの一つでした。学習サポートセンターの学習支援、創造教育、医用機器開発の特別課程の実施などが高く評価されました。一方で、教育実践の基礎となる「三つのポリシー」の周知が十分でない、各方面でのアン

ケート調査に基づく教育改善の取組みが十分でないなどの指摘も受けました。今後、保護者・卒業生・学生の皆さんからの意見・要望に耳を傾けて教育改善に努めたいと考えています。



平成30年度を 振り返って

校長補佐（学生主事）
高野 明夫

この1年間の学生諸君の生活を振り返ると、実に様々なことがありました。年度当初には、SNSを通じた友人への中傷や、夜に寮を抜け出して教室の机に悪戯するなどの出来事がありました。交通事故の面では、残念ながら年間を通じて学年問わず報告がありました。通学途上での事故もあれば、自宅に帰ってからの事故もありました。大きなものとしては、夜中の4時頃に自宅から友人宅にバイクで向かおうとして転倒し、両腕両足鎖骨を骨折するという事故がありました。自損事故で、12月のことでした。夜間は見通しが悪く危険です。学生生活の手引きにあるように、夜間の外出は極力控えてほしいと思います。

次にメンタル面についてです。学生は、寮での悩み、クラスでの悩み、クラブ活動での悩み、親子関係の悩みなど、学習面の悩みだけでなく実に多くの悩みを抱えています。こうした悩みは複合化し、授業欠席や不登校、学習意欲の喪失、非法行為となって現れます。学生生活支援室では担任を補佐しながら、カウンセラーと共にこ

これからも教職員一丸となって教育・研究・社会貢献に邁進し、新しい時代の技術者教育をリードする沼津高専であり続けたいと考えています。引き続き保護者の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

うした学生の対応に当たっていますが、来年度から、学生の悩みが深刻化する前に、学生同士が日常の相談相手となって話を聞く、「ピアサポート」という活動を始める予定です。次期学生会長の杉山結紀さんは、2つの公約をあげて当選しました。1つは学生同士の交流会を企画すること、もう1つがピアサポートです。学生生活支援室では学生会顧問を通じて学生会と連携し、ピアサポーターに相談の対応法を学ばせながら、学生相談に当たらせる予定です。ピアサポーターには学生会と支援室長が人選した学生が当たります。将来は、学習サポートセンターの学習支援活動との連携も視野に入れています。

最後に、学生の活躍について報告します。まず学生会ですが、今年はLightning Talks、5年生の大学編入学試験報告会、留学生交流会などの新企画を次々に実施し、役員の活躍が光りました。クラブ活動では、東海地区高専体育大会で、陸上、卓球、硬式テニス、水泳、弓道、合気道の各クラブが優勝または準優勝を果たしました。文化活動では、「東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト」で本校学生が1位・2位を占め、沼津市の「にほんごスピーチコンテスト」では本校の留学生が優勝するなどの活躍が見られました。

学生が安心して学校生活を送れ、かつその能力を十分発揮できるように、今後も努めて参ります。来年度も保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



寮生会に支えられた1年

校長補佐（寮務主事）
川上 誠

この原稿を書いている時点では、まだ1ヶ月弱寮生活が残っています。約1年の間にはいろいろなことがありました。寮務主事として力不足を痛感する1年でもありました。そんな私を支えてくれたのが寮長の秋山亜久里君をはじめとする本部役員や各棟・各部署の役員でした。中にはちょっと羽目を外して戦列を離れていった学生もいましたが、寮の運営のために一生懸命活動してくれました。特に女子寮は男性教員が気軽に入れないこともあり、明峰の棟長には苦勞をかけたと思っています。現在は来年度の役員への引継ぎが行われています。今年度と来年度の寮三役を中心に、毎日忙しく動き回っています。学年末試験も近づいて来ており、勉強に差しさわりがな

いか心配になります。多少疲れが見える役員もいますが、そこは若さで乗り切ってくれてくれるでしょう。

今年度、教育後援会の寮生部会と寮生会の話し合いが持たれました。教育後援会が寮生会に対して支援できることはないかが話題となり、南寮の洗濯場の環境改善と寮内ネットワークの改善について進めることになりました。洗濯場の老朽化に関しては学校側で一部を修理することとし、教育後援会には洗濯籠の置き場所として柵の設置に協力していただけることになりました。柵の設置に関しては、委員長がアイデアを出してくれることになりました。また、寮内のネットワーク環境に関しては、IT管理が電波強度の調査をし、民間の業者を入れるかどうかのアンケートを実施するところまで進みました。部署ごとにスペシャリストがいて頼りになります。また、寮生部会で話題になった寮の食事に関するアンケートも取ってくれました。食堂に提出しましたので、寮生が喜ぶ食事の提供につながると考えています。

少し残念なこととして、寮生会が頑張ってくれているにも関わらず、近隣から騒がしいとの苦情が何件かあっ

たことです。ワールドカップの中継のときや定期試験明けに多かったように思います。役員でない寮生にも自覚を持って過ごしてもらいたいと思います。もしかしたら来年度は役員になる学生が混ざっていたかもしれません。



協同を活かして さらなる前進を

専攻科長
稲津 晃 司

平素から専攻科の教育研究にご理解、ご協力いただき、まことにありがとうございます。平成30年度の専攻科では例年通りの教育研究に3つの新しいことを取り入れて活動しました。

ひとつめは1年後期に実施している学外実習での実習先についてです。企業、大学、研究所等団体での実習で、韓国のクモ工科大学とウソク大学の国外実習先で取り組んだ学生数が昨年度の2倍の4名になりました。さらに、昨年度から始まった高専4.0イニシアチブ事業で本校地域創生テクノセンター内未来創造ラボラトリーに入居している企業において4名の学生が「学内」学外実習に取り組みました。より多様な環境で学生が実習に取り組むことは、各自の実習先での学びに加えて、学外実習報告会をはじめとした機会に同級生が得た多様な学びを知ることとなり、一層効果的な実習になることが期待されます。

ふたつめは、1年生の実践工学演習の一環として参加している本校主催の「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」において、2年生を中心とした専攻科生の研究紹介の発表を組み入れたことです。研究発表は、学内外でそれぞれの専門分野の人々に成果の発信を行うことがほとんどである中、地域企業の技術者という異なる分野

寮生会と寮務関係教員が協力して、よりよい寮を目指したいと思います。まだまだ至らない点があると思いますが、保護者の皆さまの変わらぬご支援とご協力のほど、よろしく願いいたします。

のプロに研究紹介をするという経験をすることで自身の研究を違った面から見直す貴重な機会となりました。これらは本校地域創生テクノセンターとの協同により得ることができた成果です。

3つめは、本校のもう一つの高専4.0イニシアチブ事業でもある国際化の推進として、専攻科2年生が、2年間の専攻科研究の集大成を披露する専攻科研究発表会を交流協定校の韓国クモ工科大学との合同研究発表シンポジウム「Japan-Korea Technical Symposium in Numazu 2019」として行う試みです。これは、本校とクモ工科大学で留学生の相互派遣という形でやってきた交流に研究活動での交流を加えた初めての機会であるとともに、ほとんどの専攻科生にとって、初めての英語による口頭での研究発表への挑戦となりました。準備から発表、質疑応答まで大変な頑張りを必要としましたが、学生諸君はしっかりやり遂げてくれました。シンポジウム後の交流会でもクモ工科大学の学生らと親交を深めることができ有意義な試みとなりました。これは本校国際交流センターとの協同により得ることが出来た成果です。

変化し続ける社会と技術は、技術者にも変化を要請します。専攻科は確かな専門性に加えて柔軟に幅広く活躍できる技術者を輩出すべく挑戦し、前進し続けます。挑戦が着実な前進となるには、学内、地域、国内外といった多様な機関との協同が不可欠です。今後とも専攻科の活動へ一層のご支援のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

KOSEN (高専) 4.0イニシアティブ

KOSEN (高専) 4.0イニシアティブ の継続

学校長
藤 本 晶

昨年度から始まった標記事業に、沼津高専からは「国際化」と「地域への貢献」の2つの分野で採択され、事業を進めてきました。前者では短期留学生の宿泊施設の整備や学内表示の多言語化等を実施し、後者では学内にインキュベーション施設を整備し3つの企業が入居しています。

標記事業は当初から2年間という期限付きであり、この3月で終了することになります。これまでの活動で、色々な施策を実現させることができましたが、まだまだ十分ではありません。社会からの要請に応えるためにも、これからも引き続き進めて行かなければなりません。

国際化では1月に韓国の大学と合同で、学生の研究発表会を実施し、3月に米国の大学へ学生が短期留学します。また平成31年度の秋に4年生全員が研修旅行で海外に出かけます。地域への貢献では、インキュベーション入居企業との本格的なCOOP教育を始めようと考えています。

このように高専4.0イニシアティブ事業は、沼津高専に大きなインパクトを与えてくれました。これからもこの

ような事業をできるだけ多く実施し、沼津高専が本来の目的を果たして社会の要請に応えられるようにステップ

アップを続けようと考えています。

沼津高専発 人財育成と地域貢献を実現する技術イノベーション

地域創生テクノセンター長
遠山和之

企業技術者とともに学生の皆さんが学内で研究開発を通して商品化までの過程を学ぶ「未来創造ラボラトリー」を本校地域創生テクノセンター内に平成30年2月23日に開所しました。センター3階にある企業の入居スペース3部屋に、COOP教育に協力頂ける企業3社が入居しております。この未来創造ラボラトリーを活用した短期ま

たは長期のインターンシップは、本事業で新たに策定した「COOP教育プログラム」の修了要件の1つで、本年度、本科生1名、専攻科生4名が受講しました。学生を受け入れた入居企業からは、「ユニークな学生が多くて面白い」、「素直で素晴らしい人格」、「会議やプレゼンテーションなどで必要なスキルが備わって理解能力の高さが窺える」等の評価を頂きました。学内インターンシップを通して静岡県での新産業で活躍できる技術者を輩出する画期的なプログラムであり、本校の特色・強みとすべく今後も精力的に取り組んでいく所存です。一層のご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」について

国際交流センター長
小林美学

本校では昨年度に引き続き、KOSEN 4.0イニシアティブ採択プログラム「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」をもとに、学内の国際化を推し進めています。

今年度については西ミシガン大学（アメリカ）、ウソク大学（韓国）の2校と新たに国際交流協定を結び、3月には5名の学生を西ミシガン大学に派遣することを予定しています。またすでに交流協定を締結しているクモ工科大学（韓国）とは1月に、専攻科の協力を得て国際シンポジウムを開催し、専攻科2年生が堂々と英語で2年

間の研究成果を発表しました。

図書館には、学内の教員が選定した主に専門科目の英字教科書37冊を配架しました。日本人学生が気軽に自分の専攻分野の英文に触れることができるとともに、アジア各国から来ている留学生の学習教材としても役立つものと思います。

提携校との短期留学生の相互派遣など、その他の取り組みも引き続き行っています。12月には学生会が自主的に留学生との交流行事を開催し、尚友会館で楽しいひとときを過ごしました。これもこの取り組みの効果が目に見える形で現れたものの一つだと思います。

平成29年度からの2年間のプログラムであったKOSEN 4.0イニシアティブは、本年度末で終了します。この2年間の取り組みをもとに、さらに学内の国際化を推し進め、国際的に活躍できる素養を身につけた技術者の輩出に努めていきます。

各学科から（平成30年度総評）



「心の支え」

機械工学科長
三谷祐一朗

今年度、初めて学科長という仕事を引き受けて、学生の情報がたくさん寄せられるようになりました。その中で、特に強く感じるのは、学生の「心」についての報告や相談でした。まだ若い学生達の悩みは尽きることはなく、家族のこと、友人のこと、勉強のこと、先生のこと、

部活のこと、恋愛のこと、将来のこと…。まだまだ人生経験の浅い、ときには自分自身のコントロールすらままならない、小さな心で、とても大きな悩みを抱え、不安に感じている学生がたくさんいます。学校という組織を運営していく立場で一番大切なのは、そういう多くの悩みや不安を抱えた学生の心をちゃんと見て、安心して学生生活を送れる、心の支えになることだと、あらためて感じた一年でした。

そのようなたくさんの情報に触れているうちに、学校として、とても大切なものが沼津高専にもあることがはっきりと見えてきました。しかも、一つだけではなくいくつもあります。それは、学生にとってのオアシスの存在

でした。その中でも特に、低学年の時の担任の先生は、上級生になっても学生の相談相手になり、卒業するまでそのクラスのことをよく見ていて、専門学科の教員よりはるかに心の支えになっていることが多いと感じました。そういうオアシスになっている先生からは、同じ教員として見習うべき点が数え切れない程あって、難しい研究や、ややこしい専門の授業よりも、まずはその辺りを教員として学ぶことが、学生が安心して勉強に取り組むこ

とができる学校づくりに大切だと痛感しました。

私自身も、学生の頃は悩みをたくさん抱えていました。勉強や人間関係が思うようにならず、自分の心に閉じこもったり、嫌なことから逃避したりして部活動に明け暮れた時期もありました。しかし、それらを経験したくさん悩んだからこそ、今の自分があるのだろうとも思います。強い心を持って卒業できるよう、これからも学生の心の支になりたいと思っています。



一年を振り返って

電気電子工学科長
西村 賢治

ひとつの区切りとなる時期が巡ってきました。保護者の皆様には、学科運営に理解と協力をいただきましたこと、お礼申し上げます。さて区切りの時期なので、学生と保護者の皆様には、この一年を振り返りつつ、来年度に向けてぜひ意識していただければと思うことをお伝えします。

5年生とその保護者の皆様、いよいよ卒業です。おめでとうございます。新しい門出を心からお祝い申し上げます。今年の5年は42名で、今年も就職と進学がほぼ半々でした。本校の卒業生として胸を張り、新天地に羽ばたいてください。

4年生とその保護者の皆様、5年生は進路を決定する年を迎えます。5年生になってから、「どこにしようか?」と考えるのではなく、決定する年です。就職や編入学に向けた行動は、既に始めてないといけません。もしまだ

ならすぐ取りかかりましょう。保護者の方も一緒に考えてください。

3年生とその保護者の皆様、4年生は就労体験（インターンシップ）があります。高専ないしは大学を出た自分にとって働くとはどういうことか、会社は自分にどんな活躍を求めるのか、といったアルバイトとは違う観点で仕事・職場を体験する年です。進路を考える上でも大切な経験になります。

2年生とその保護者の皆様、3年生では専門科目が増えます。電気電子分野は広いですから、まだ基礎ではあるものの、新しい専門科目が次々と始まります。中だるみしやすい年でもありますから、気を引き締めてください。

1年生とその保護者の皆様、どんな1年だったでしょうか。来年もまだ専門科目よりは教養科目が多いですが、直流回路から交流回路に話が進み、電磁気学も始まります。基礎とはいえ、電気の根幹を担う科目なのでしっかり取り組んでください。前号で紹介した、Eスタ（勉強会）は、この春休みも活動します。施設の定員の都合で、全員を受け入れることはできませんが、ついていけないことがないように、勉学の応援をします。

引き続き学科運営に協力をお願いします。



平成30年度を振り返って

電子制御工学科長
鄭 萬 溶

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、電子制御工学科における教育と学科運営にご理解とご協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。

11月の学科説明会においてもご報告いたしました、5年生41名の中、20名が就職、20名が進学希望、その他1名で、活動を始めて全員無事に進路が決まりました。進学に関しては、12名が大学に、8名が沼津高専専攻科に進学することになりました。就職につきましては、売り手市場ということもあって、ほとんどの学生が順調に進路を決めておりますが、辛うじて進級した学生は11

月まで苦戦を強いられていました。進学に関しては、5年担任の大沼を中心に目標を高く設定して臨むように指導した結果、大学編入学の人数を伸ばすことができ、また九州大学、筑波大学、東北大学、名古屋大学にそれぞれ1名ずつ合格者を出すことができました。来年度もこの流れを維持できるように努力していきたいと考えております。専門分野に対しても、社会の変化を鑑みて、業種や専門分野に関する情報をなるべく多く提供し、短期と長期のキャリアプランを持って進路を決められるように指導していきたいと考えておりますので、今後ともご関心とご声援をよろしくお願いたします。

高専は、高専機構の指揮下で大きな変革を行っております。これまで各高専に任せられていた教育課程がモデルコアカリキュラム（MCC）というもので統一化を図ろうとしております。複合専門学科である電子制御工学科では、特にその影響が大きく、一部の科目においては授業内容を変更していく必要があります。また、教員の定員削減が現実のものとなり、その内容に合わせる形で、

一部のカリキュラム変更を行いました。具体的には、学修単位を増やし、プログラミング系の科目についても時代の変化に合わせる形で変更いたしました。今後も制御情報工学科との連携を取りながら、合同開講科目を増やすなどして対応していきたいと考えております。時代の

波に翻弄される昨今ですが、これに負けず教育の質を保つべく、学科教員一丸となって頑張っていきたい所存ですので、これからもご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



1年を振り返って

制御情報工学科長
芹澤 弘 秀

保護者の皆様をはじめ、関係各位には日頃より学科運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。特に11月の学科説明会及び創造設計成果発表会には多数のご参加をいただき、大変ありがとうございました。

さて、本学科の進路状況についてご報告をさせていただきます。就職活動は今年度も順調な滑り出しとなり、就職指導担当（長縄教授）の指導のもと、途中から就職に切り替えた学生も含めた就職希望学生15名全員が内定をいただきました。就職先は、キャノン、浜松ホトニクス、トヨタ自動車東日本、国立印刷局など、県内外の様々な業種の企業・機関となっていて、高専は就職に強いということを実感しました。一方、進学についてはS5担任（藤尾教授）の指導のもと、クラスの半数以上の学生が大学編入学試験等の進学試験に合格し、17名が東工大や九州大をはじめとする国公立大学等へ編入学、4名が本校専攻科へ進学する予定となっています。5年生諸君は4月から新しい環境での生活が始まりますが、数十年にわたるキャリア人生のまだ出発点であることを

意識し、卒業後も日々精進してください。

4年生以下の学生諸君は4月になると学年が一つ上がり、進路決定という現実が近づきます。早い時期から仕事について十分に考えると同時に、高専の早期技術者教育システムの利点を積極的に活用して学力向上と技術力の修得を目指してください。12月の創造設計作品発表会では豊橋技科大との連携プロジェクトとして米国シリコンバレーとのネット中継が実現し、現地で活躍する日本人技術者から多くの有益なコメントを頂きましたが、現代のモノづくりには創造力のみならず既存技術の活用に関する応用力とスピード感が重要であることを再認識するとともに、本学科の創造教育の方向性は間違っていなかったと実感できました。学生諸君には現代のモノづくりに十分通用する本学科のカリキュラムを信じて勉学に励んで欲しいと思います。

最後に、この2年間、至らぬ点が多々あったかと存じますが、多くの方々のご支援により学科長の職務を全うすることができましたこと、心より感謝申し上げます。学校・学科のためにご尽力いただいた吉野教授と金子助教が3月末で退職となり、4月からは松本准教授が復帰するため、来年度は教員10名の体制となります。本学科教員一同、今後も全力で学生指導にあたっていきますので、保護者の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



平成30年度を振り返って

物質工学科長
大川 政 志

平成30年度も物質工学科の教育・研究活動にご支援を頂き、保護者のみなさまをはじめ関係各位の皆様にお礼を申し上げます。11月に行われました学科説明会へも多数の参加をいただきまして御礼を申し上げます。

物質工学科の1年を振り返ってお伝えいたします。

本年度は4月に42名の新入生とマレーシアからの留学生を1名、新任教員と宇部高専からの人事交流による教員を各1名加えて、1年生42名、2年生41名、3年生45名、4年生40名、5年生46名、教員11名でスタートしました。

4月に1年生が御殿場で1泊2日の研修を、10月に2年生が日帰りの富士急ハイランドにおける特別研修旅行と4年生

の2泊3日の関東方面への工場見学との恒例行事が無事行われました。例年行われていました3年生のスキー研修は本年度より取り止めとなりました。来年度は工場見学の代わりに台湾にて海外研修を行うことを予定しております。

平成30年度の5年生の進路について報告いたします。本年度の就職内定者は19名（女子10名）、進学内定者は27名（女子9名）となっています。昨年同様、多くの企業からの求人もあり、就職は早々と第一志望の企業から内定をうける学生ほとんどでした。一方で、東京工業大学をはじめとした国立大学や専攻科から合格を得て、進学先を決定しております。今年も無事5年生が進路を決定できているのは学生の努力のみならず、保護者の皆様、多くの卒業生、学校関係者の方々のおかげであり、この場を借りて感謝申し上げます。来年度以降も将来活躍できる卒業生を排出できるよう物質工学科の教員が一丸となり、授業や研究を通じて学生の指導を行なっていきますので、保護者のみなさまのご支援と協力をお願いいたします。



年度末にあたって

教養科長
佐藤 誠

日頃より、教養科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。今年度の教養科においては、大橋先生の病気休養に伴う担任の変更や授業担当の変更など、学生や保護者の皆様にいろいろご心配をおかけしましたが、何とか1年を終えようとしています。

さて、今年度よりモデルコアカリキュラムをベースとした教育課程が本格的にスタートしました。教養科が担当する一般科目においては、リベラルアーツとして学生の教養を育成していくという側面と工学教育の基礎を育成していくという側面の二つの役割のバランスを考慮して授業を展開していくことをモットーに、各教科での教育プログラムを再構築してきました。まだまだ不十分で今後も検討する課題が多く存在していますが、教育の質を保証するべく来年度以降も努力していきたいと考えています

さて、個人的な感想ではありますが、ここ数年、学生達の中に学習意欲の低下した者や目的意識の希薄な者が増えてきているように感じています。本校を受験した際には、皆が大きな夢を持ち、希望を抱いて入学してきたことと思います。その気持ちを学生諸君にはもう一度思い出してほしいと思います。沼津高専がこれまでどおりの社会的評価を維持していくためには、教員の努力と学生の努力がかみ合った状態を作っていく必要があります。学生には自分の夢や希望をかなえる努力を期待し、教養科教員もその夢の実現に協力できるようにがんばって行ければと考えています。

最後になりますが、これまで長きに渡り教養科長等の要職を務められ、本校数学教育に尽力されてきた西垣誠一先生が定年退官を迎えられます。幸いなことに先生は再任教員として学校に残っていただけることになっております。現在、教養科では来年度1名の新しい先生をお迎えする予定でいます。来年度も新しいスタッフとともに、いろいろな課題を解決しながら学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう努力していきたいと考えていますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

国際交流センターから

沼津高専の国際化に向けて

国際交流センター長
小林 美学

国際交流センターには、海外交流委員会と留学生支援委員会の2つの委員会があり、それぞれが精力的に活動しています。卒業後、国内外で外国人技術者とコミュニケーションをとりながら工学的な問題を解決するためには、言語の取得とともに、異なる文化や考えを受け入れたり、自分達の文化や自分の考えを正しく理解して発信したりする能力が必要です。学生達が様々な体験を通じてこれらの能力を身につけられるように、今後も活動していきたいと思います。

沼津高専で学ぶ留学生達

留学生支援委員長
川上 誠

本校では、現在7名の留学生が在籍しています。国別にしますと、マレーシア2名、モンゴル2名、インドネシア、タイ、ベトナムがそれぞれ1名です。

イベント等への参加状況について紹介します。10月6日(土)には3年の留学生3名が「2018NICEにほんごスピーチコンテスト」に出場し、ベトナム出身のタン君が見事に優勝しました。11月3日(土)には鎌倉・江ノ島方面に研

修旅行に出かけました。見所がたくさんあり、予定していたすべての場所を訪れることはできませんでしたが、全員楽しい1日を過ごしたようです。11月10、11日の高専祭では、留学生が母国の概要や各国の多彩な文化などを紹介する「留学生の部屋」を開催しました。留学生にとっては、日本人学生だけでなく、地域の方々と触れ合うことにより、コミュニケーション能力を磨く貴重な機会となりました。OB留学生も駆けつけてくれ、賑わいを見せていました。12月23、24日には東海地区の留学生交流会に参加し、東海地区5高専の留学生達と施設や工場見学、ボランティアによる日本文化体験などを通じて交流しました。

また、学生会役員が留学生と一般学生との交流会を企画し、12月17日(月)の放課後に尚友会館でパーティーを開

いてくれました。1～5年生までの30人ほどが集まり、おしゃべりやゲームで楽しい時間を過ごしたようです。留学生はパーティーに呼んでもらってとても嬉しかった、楽しかった、と口々に言っていました。

主にイベントについて紹介してきましたが、ふだんの生活の中での係わり合いこそが本当の意味での国際交流

だと思えますし、母国を離れて一生懸命に勉学に励む留学生の姿は本校の学生にとっても、良い刺激を与えてくれていると感じています。今後もより多くの留学生が沼津高専で学び、日本人学生との交流が普通に行われることを望んでいます。

海外交流委員会報告

海外交流委員長

鈴木久博

従来からの提携校クモ工科大学（大韓民国）に加え、今年度は、ウェスタンミシガン大学（アメリカ合衆国）

およびウソク大学（大韓民国）とも交流協定を締結しました。それらの3校との交流に加え、高専機構の包括協定校とも交流をしました。グローバルな時代に生きる技術者として不可欠な資質を身に着けるために、学生の皆さんが異文化に触れたり、コミュニケーション力を伸ばすことができる機会を提供してゆきたいと思えます。

今年度の本校学生の海外への派遣、および海外からの短期留学生の受け入れは以下の通りです。

学生の海外派遣等一覧（平成30年度）

年度	名 称	期 日	学生参加者数	主な訪問（研修）先
派 遣	高専生のための英語キャンプ	平成30年8月19日～ 平成30年9月2日	1名 (本科4年生)	Singapore Polytechnic（シンガポール）
	テクニカルチャレンジプログラム2018 @香港	平成30年8月26日～ 平成30年9月5日	2名 (本科4・5年生 各1名)	香港VTC/ IVE (Sha Tin Campus) (中華人民共和国)
	国際シンポジウムISTS 2018	平成30年10月6日～ 平成30年10月14日	1名 (専攻科2年生)	キングモンクット工科大学ラカパン校（タイ）
	専攻科長期インターンシップ	平成30年9月29日～ 平成30年12月29日	1名 (専攻科1年生)	ウソク大学（大韓民国）
	専攻科長期インターンシップ	平成30年10月25日～ 平成30年12月24日	3名 (専攻科1年生)	クモ工科大学（大韓民国）
	アメリカ異文化体験および語学研修	平成31年3月5日～ 平成31年3月25日	5名 (本科2年生2名、 3年生3名)	ウェスタンミシガン大学（アメリカ合衆国）
受 入	Internship Program for the Thammasat University Students	平成30年6月13日～ 平成30年7月27日	1名	タマサート大学（タイ）
	Short Study Program for the KMITL Students	平成30年7月2日～ 平成30年7月27日	2名	キングモンクット工科大学ラカパン校（タイ）
	Training Program for KIT Students	平成30年7月31日～ 平成30年8月28日	4名	クモ工科大学（大韓民国）
	同上	平成31年1月21日～ 平成31年2月4日	3名	同上

人事異動について

平成30年度 人事異動

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成30年7月1日	佐藤 崇徳	教授（教養科）に昇任	准教授（教養科）
〃	新富 雅仁	教授（機械工学科）に昇任	准教授（機械工学科）
〃	黒澤 恵光	准教授（教養科）に昇任	講師（教養科）
〃	高矢 昌紀	准教授（電気電子工学科）に昇任	講師（電気電子工学科）
〃	山之内 亘	准教授（電気電子工学科）に昇任	助教（電気電子工学科）
〃	青木 悠祐	准教授（電子制御工学科）に昇任	講師（電子制御工学科）

部 活 動

第53回全国国立高等専門学校体育大会入賞者

競技名	種目名	成績	クラス	氏名		
陸上競技	男子の部 4×100mリレー	7位入賞	D5	大勝 友晶		
			S5	土屋 美童		
			E2	小池 鼓太郎		
			D4	瀧口 周		
水泳競技	女子の部 100m背泳ぎ	8位入賞	C5	渡辺 麻彩		
			100m平泳ぎ	6位入賞	C5	渡辺 麻彩
					D4	瀧口 周
陸上競技	男子の部 走幅跳	5位入賞	D4	瀧口 周		

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	
陸上競技	男子の部 4×100mリレー	2位	D5	大勝 友晶	
			S5	土屋 美童	
			C4	吉田 健太	
			E2	小池 鼓太郎	
			D4	瀧口 周	
			D5	田中 健太	
テニス	女子個人の部 シングルス	優勝	C4	小澤 英真	
			C4	吉田 健太	
水泳競技	男子の部	2位	D4	山崎 蒼人	
			D4	山崎 蒼人	
			C1	天羽 明	
			D4	川口 大和	
	女子の部	100m背泳ぎ	1位	C5	渡辺 麻彩
				C5	渡辺 麻彩
水泳競技	男子の部 100m平泳ぎ	2位	D4	山崎 蒼人	
			D4	山崎 蒼人	
水泳競技	男子の部 50m自由形	2位	C1	天羽 明	
			D4	川口 大和	
水泳競技	女子の部 400m自由形	2位	D4	川口 大和	
			D4	川口 大和	

競技名	種目名		成績	クラス	氏名
卓球競技	男子団体の部	男子団体の部	優勝	M4	北村紀人
				S4	小川考輝
				S4	鈴木涼斗
				E4	平沢朋幹
				E4	山村亮介
				C4	鈴木雄心
				C3	栗野興紀
				E3	鈴木大心
				M3	山竹壺佳
				S3	勝又柊二
				M2	富坂聖司
E2	鈴木亨征				

第5回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者

競技名	種目名		成績	クラス	氏名
弓道競技	男子個人の部	男子個人の部	優勝	S4	中嶋佑斗
			2位	M4	秋山亜久里
	男子団体の部	男子団体の部	優勝	M4	秋山亜久里
				D3	中村敏渡
				S4	佐野大輔
				M4	安藤瞭
				S4	中嶋佑斗

行事・コンテスト・その他イベント

体育祭

viva!運動会! viva!沼津高専!

体育祭実行委員長
電子制御工学科4年
土屋優貴
機械工学科4年
秋山亜久里

「よーし!来年は運動会やるぞ」
学生会長の気まぐれな一言。
「あ〜!!イイっすねえ〜」
僕の軽く言ったつもりの一言。
この会話で全ては始まりました。
これは体育祭が運動会になる過程の話です。

体育祭実行委員だった頃、僕は正直「沼津高専の体育祭に活気が無い」と感じていました。その現状を打破するべく実行委員長になることで、改革を興せる立場へと登りつめました。

そして去年、同じく実行委員長になった僕の相方と全学生が楽しめるような体育祭を考えていたところ、学生会長から体育祭運動会化計画が発案されたのです。

その計画が通ってからは、運動会を実施している他高専から定番の競技についての情報を交流会等の場で収集したり、スケジュールや運営について考えたりする日々が続きました。

そこでは、玉入れや綱引き、eスポーツなど普通の運動会に縛られない多種多様な候補が出ましたが、最終的に、今年はこれまでの球技にリレーを追加する形で話がまとまりました。

初めてリレー競技を決行するにあたって、色々な不安要素がありました。例えば運営はスムーズにいくか、ケガする人はいないか等々数えきれなかったです。その中で一番怖かったのは、リレーを観に来てくれる学生がいないのでは、ということでした。そこでリレーの観戦をしてくれる学生を増やすため、運動場での午後の点呼からそのままリレーという流れを作る工夫をしました。嬉しいことに、各学科応援エリアいっぱいの学生が学科代表のリレー選手を応援しに来てくれました。「ここまで準備できて良かった」「皆楽しんでくれているな」「沼津高専も捨てたものじゃないな」など色々な思いが込み上げ

て来て涙が出そうになるくらい嬉しかったです。

ただ後に知ったのですが、リレーに多くの学生達が集まったのは青山先生や、渡邊先生、学科長を初めとする各学科の先生方が広報してくれたおかげだと知りました。本当に頭が上がりません。

テレビを見ていると“皆のおかげ”というフレーズをよく耳にします。今まで僕はこれに対して、「綺麗事言っ

ているな」などと思っていたのですが、いざお世話になる側へ回ると本当にこの言葉が頭に浮かんで離れなくなります。運動会を成功に導けたのは多くの方々のおかげだと今も心から思っています。

改めて体育祭に協力して下さった方々、盛り上げて下さった方々、どうもありがとうございました。

高 専 祭

第53回高専祭 -Bridge-

高専祭実行委員長 物質工学科4年
石 塚 美音野

今年度は「Bridge」という人と人、未来と過去の繋がりをイメージしたテーマをもとに高専祭活動を行ってきました。私は2年間高専祭実行委員会に所属しています。高専祭実行委員会は各部署の長たちの集まりで、前年度の12月から活動をスタートしています。まずは長たちでテーマ、予算、企画を決め、前年度からの改善すべき点は何か、どのように改善していくかなどを何度も話し合います。その後、出店やスタッフの募集を行い、スタッフ活動が始まり、11月に本番を迎えます。今年度は例年同様B1グランプリや学科プロ、ロボコン部の展示等にくわえ、新企画として5年生主体の卒業展示やCFのお披露敷を取り入れた様々な企画を行いました。

今年度は約300人の学生が高専祭スタッフへ入ってく

れました。正直、こんなにもたくさんの人に入ってもらえると思っていなかったのととても驚きました。活動中は、ハプニングもありましたが、皆楽しんで活動を行っていました。今年度は約2900人の方が高専祭に来場してくださりました。来場してくださった方やスタッフの皆、先生方にも楽しい高専祭だったといってもらえたことがとても嬉しかったです。

私は2年時から高専祭スタッフに参加し、昨年度は会計長を勤めさせていただきました。そのため夜間のスタッフ活動へ参加することは今年がはじめてでした。私は、1年生からスタッフに入ってこなかったことや高専祭の企画にあまり触れてこなかったことを後悔しました。なので私はもっとたくさんの学生や先生、保護者の方にも私たちの学校の学生の手でつくるこの高専祭を見にきてほしい。高専祭に参加してほしい。と感じました。なので是非一度足を運んでもらえると嬉しいです。

最後になりますが、高専祭スタッフの皆さん、先生方、保護者の皆様、地域の方々の協力があったからこそ高専祭を無事成功させることができました。本当にありがとうございました。

知財の寺子屋活動報告

地域特性を知財創造教育の キャンパスに!!

電気電子工学科教授
大 津 孝 佳

伊豆半島や駿河湾、自動車産業などの地域特性を活用し、地域の未来を担うエンジニア育成を目的とした同好会『知財のTKY（寺子屋）』を2016年に設置して以来、現在42名の学生が在籍し、複数のプロジェクト活動を行っています。本年度の主な活動の成果は、下記の通りです。

(1) 深海プロジェクトでは、機動力のある深海調査を目的に独自の観察システムを開発し、川嶋玲志（S2）、鈴木涼太（M2）、鈴木檀（D2）、荒川琉平（E1）、廣野忍（E1）、落合駿（D1）、浦田楓真（D1）、鈴木飛央（S1）、諸星綾音（S1）、武田安祐美（S1）、漆畑幸星（E5）が、10月21日に駿河湾沼津の深海530mに続き、12月2日には深海1050mでの海底の地形の様子、深

海魚や海底の深海生物などの4K映像撮影に成功しました。その成果は12月8日に日本動物学会中部支部大会（名古屋大学）の高校生高専生ポスター発表にて鈴木檀（D2）、荒川琉平（E1）、廣野忍（E1）、浦田楓真（D1）が「駿河湾沼津の深海200～500mの映像観察」と題し発表し、『奨励賞』を受賞しました。

(2) KV-BIKE（電池自転車）プロジェクトでは、ものづくりの知識と技術、チームワーク、エネルギーマネジメントを競う環境配慮型イベントである8月5日のSUZUKA全国大会と11月24日のMOTEGI全国大会に、漆畑幸星（E5）、鈴木檀（D2）、諸星賢太郎（M2）、鈴木涼太（M2）、川口小次郎（S2）、荒川琉平（E1）、日吉賢祐（E1）、鈴木大輔（E1）、浦田楓真（D1）、落合駿（D1）、渡邊大輔（D1）、鈴木飛央（S1）、佐藤航（S1）、諸星綾音（S1）が、①360VR画像データ解析、②静岡県自動車学校での実践的走行シミュレーション、③挑戦マシンと信頼性マシン戦略などで挑み、MOTEGIの大学高専部門で『準優勝し、3年連続表彰台』の快挙を達成しました。また、電気電子工学科と共に支援した三島市の中学生のチームも、中学生部門で『初出場初優勝』をしました。

(3) INPIT (独立行政法人工業所有権情報・研修館) 主催の「取組成果展示・発表会」(8月8日)に川嶋玲志(S2)、鈴木檀(D2)、鈴木涼太(M2)が、「沼津高専における取組『地域と取り組む創造型未来産業人材育成』～地域特性を活かした知財学習：創造・保護・活用～」と題して発表し、『挑戦賞』を受賞しました。

(4) 2017年度のパテントコンテストで優秀賞を受賞したM2の鈴木涼太さんの「刃物研ぎ器」の発明は、2018年6月に特許を取得することができました。1月17日にはSBSテレビの「イブアイしずおかニュース」にて『ひらめきが凄い17歳の発明家』として紹介されました。

ロボットコンテスト2018

全国大会出場に向けて ～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度も高専ロボコン東海北陸地区大会が10月14日(日)にいしかわ総合スポーツセンター(石川県金沢市)にて開催されました。

2018年度の競技課題は、ロボットによる「ボトルフリップ」です。1チーム2台までのロボットが自陣の8つのテーブルに向かってペットボトルを投げてかっこよく立たせる競技で、テーブルの上でペットボトルが立った場合にだけ得点となるため、正確な射出機構が求められます。しかも中央にあるテーブルの上段は2.4mという高さ、ここにペットボトルを立たせられるかが技の見せ所です。

沼津高専からはAチーム「SilValet(シルヴァレット)」、Bチーム「J dx(チンアナゴデラックス)」の2チームが出場しました。ロボコン部部長D4古川君のもと、AチームリーダーM3後藤君、BチームリーダーS4伊藤君を中心として総勢48名の部員たちが連日作業を進めました。大会ではBチームについては射出機構について評価いただき、特別賞(東京エレクトロン)を受賞しましたが、今年から導入された予選リーグにて両チームとも敗退となりました。

Aチームは2年生3年生が主体のチームで、自分たち

にできることを確実にする、ことをテーマに開発を進めてきました。手動ロボットによるペットボトル5発の一斉発射はキレイに実現しましたが、ペットボトルを正確にテーブルに立てる最終調整に苦戦しました。

Bチームは4年生8人によるチームで、過去3年間、共に磨き上げてきた技術を集結したロボットを開発しました。キレイにペットボトルがフリップする機構やエンコーダ、ジャイロセンサを用いた自己位置推定、ワイヤレス緊急停止スイッチ等、彼らが考えたアイデアはよく出ていました。そのチャレンジを評価していただき特別賞をいただきましたが、今年は体育館を何度も利用させていただき、テストランを繰り返し実施して調整を進めてきたものの、最後の一步がまだ大きな一步のようです。

全国に行けるアイデアとそれを現実にする知識と技術、完成させる努力と、会場での心の余裕。ロボコンに求められるものは多くありますが、ここからまた来年に向けて、しっかり反省をし、新体制で動き出したいと思います。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。



高専ロボコンへの取り組み

ロボコン部部長 電子制御工学科4年
古川陽太

みなさん『ロボコン』をご存じでしょうか? 「高専と言えばロボコン!」という方もいると思います。『アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト』。これが僕達の出場している高専ロボコンと呼ばれる大会の正式名称です。

毎年4月末に競技課題が発表され、10月の地区大会、

更に残れば11月の全国大会へ出場というのが、毎年の流れになります。オンシーズンと呼んでいるこの半年間で競技課題を満たすロボットを作成しています。競技は毎年異なり、輪投げ、箱積み、チャンバラなど様々です。ロボットは部内で2チーム、それぞれ異なったアイデア・コンセプトのものを作成しています。1台のサイズは1000mm四方を越えることもあり、それを2チーム分、多い年には7台ものロボットを作成しています。

もちろん、ロボットキットのようなものがあるわけもなく、一からアルミや鋼材を切り出して部室で加工して作成しています。最近は工場の設備をお借りして作成する部品も増えています。制御も、全体を統括するシステ

ム、DCモータ駆動をはじめとした駆動回路、コントローラとの通信プロトコルなど自分達で製作・使用しています。

それ以外の期間は来年度に向けた下級生への技術講習や、新技術開発の時間に当てられます。また、他高専との交流会などを通し、技術の向上に努めています。

次に今年の活動についてご報告します。今年の競技課題は『Bottle-Flip Cafe』、昨今ネットで話題のペットボトルを投げて（フリップさせて）立たせるというものです。ただ単に投げてテーブルに載ったとしても、得点にはならず、安定して立たせる工夫が求められました。そんな、人が挑戦しても難しいこの課題に挑みました。また今年

は、「自動制御」がキーワードになっています。沼津には自動制御のノウハウが残っていなかったのだどのようなセンサを使うかの検討から始まった開発でした。

2016年度には地区準優勝でしたが、沼津は長らく全国大会へ行っていません。今年度は両チームとも、難しい自動制御のロボットを頑張って制作しました。結果としては、全国に行くことができませんでしたがBチームが「東京エレクトロン特別賞」をいただきました。これから、「自動制御」が欠かせなくなっていくと思います。今年度開発したものを元の後輩たちには自動制御システムを完成させて全国大会に行ってもらいたいと思います。

東海北陸地区英語プレゼンテーションコンテスト

わずから分。されど……

担当

小 田 昇 平

3位となった学生の名前が読み上げられたときでした。わたくしはひとり、これはいける、と確信いたしました。正直に言うと、少しだけ、不安もあったのですが。順に、よく知る学校名と、よく知る名前とが読みあげられました。わたくしたち沼津高専の、高須麗奈さんと猪多洋介さんとがそれぞれ、栄冠に輝いたのです。

世間はクリスマス。そんなときにわたくしは、この文章を執筆しておりますが、おふたりは来月1月に、全国大会の舞台に立ちます。「誰だって15分で世界的な有名人になる」とかなんとか言ったのは、アンディ・ウォーホルでした。おふたりはそのわずから3分の1の時間で、世界に飛び立てる能力を持っていること、その能力を十分に活用するだけの努力ができること、こうした力をまわりに発信すること。枚挙に暇がありませんのでこれくらいにいたしますが、そうした力を存分に発揮してくれました。

今日、情報過多な世界がわたくしたちを取り囲んでおります。昔気質の、いいものがあれば宣伝はいらない、だとか、そういった世界にはあこがれますが、現在はそれでは立ち行きません。すばらしい品質のモノをつくっていても、どれだけ効果的な教育をしても、いかに斬新な研究をしようとも、それを発信しなければ淘汰されるだけ。現在、そんな世の中にわたくしたちは住んでいます。そんな中、おふたりは、自分のいたいことを、自分の声で、身体で、しっかりと伝えてくれたのです。

SNSが発達した現代社会においては、かんたんに自分をアピールすることができるように思えます。とはいえ、発信することはじつは、けっこうに恥ずかしかったり、



つらかったりします。それはそうでしょう、自分をさらけ出すことに他ならないのですから。けれどもわたくしたちは、いたいことを、表明する必要があります。これから先に待っている世界を切り開くには、こうした能力が不可欠です。自分の持てる力を、そしてこれからの可能性を、外部にアピールし、他者と共存する。おふたりはそれを、勇気と努力とを携えて、やっつきのけました。

未来を言祝ぐ榮譽は、おふたりのもとへと訪れました。

高須さん、猪多さん、おめでとうございます。そして、ありがとうございます。勝手乍わたくしは、おふたりを誇りに思います。願わくは、来年度以降もまた、沼津高専の後輩たちが栄冠を得ることができるよう。



1位 物質工学科4年 高須 麗奈
2位 機械工学科4年 猪多 洋介

退職教職員から



昔話

教養科
西垣 誠一

初唐の詩人劉廷芝の「白頭を悲しむ翁に代わり」という漢詩に

年年歳歳花相似たりて 歳歳年年人同じからず
という一節があります。「毎年毎年花は同じように（美しく）咲くが、（それを見ている）人は毎年毎年変わっていくものだ」という意味です。

若い頃、「年寄りな昔話をしたがる」というようなことを聞いたものですが、今昔話をしたくなっている自分自身に思いを馳せて、「歳を取ったなあ」と逆に気付かされています。

私が本校に赴任したのは1985年4月です。その当時驚いたことがいくつかあるのですが、一つは入学式で坊主頭がずらっと並んでいたことです。私は静岡県出身ではありませんので、それは異様な光景でした。そうなのです。その当時静岡県の中学生男子は全員坊主頭だったの

です。それから、女子学生が「そうだら〜」とか「わかったら〜」という言葉を使うのにも驚きました。「えっ、それ女性が使う言葉？」と思ったものです。もう一つ、あるとき年上の職員の方に「先生、昨日飛んだね」と言われて、絶句してしまいました。心の中で「飛んだ覚えはないけれど、誰かと間違えているのかな」と思ったものです。「飛ぶ」というのが「走る」と同じ意味だと知ったのは随分経ってからでした。例を三つ挙げましたが、今では中学生男子も坊主頭ではありませんし、最近「……だら〜」も上記の意味の「飛ぶ」も聞かなくなりました。そうです。変わっていくのは個人個人だけではありません。世の中全体が変わっていくのです。本校もこの30数年の間に随分変わりました。個々の力ではその流れを止めることなど到底できない変化というものがあるのです。願わくはこの流れが沼津高専を良い方向に導いてくれるようにと祈るばかりです。

文頭に挙げた劉廷芝の漢詩の続きの部分からもう一節挙げて、この文を閉じます。

この翁の白頭真に憐れむべし これ昔紅顔の美少年
「この老人の白髪は本当にかわいそうだ。（しかし、）この老人も昔は紅顔の美少年だったのだよ。」



教員生活を振り返って

制御情報工学科
吉野 龍太郎

テレビで英国がEUを離脱するブレクジットまであと何日とか、流れるたびに私の勤務もあと何日で終わるのだと、感慨にふける今日この頃です。

沼津高専に2002年に赴任して17年目となりました。定年退職を迎えるにあたり、教員生活を終えるというより、38年余りのサラリーマン人生を終えるということの方が感慨深いものがありますが、本稿の主旨に従い教員生活を振り返りたいと思います。

企業が在職中に思い切って沼津高専の教員募集に応募したところ、運よく採用され教員生活が始まりました。最初の授業は大変緊張したのを思い出します。人生で初めてのことなので90分も話すことができるのか、難しい質問をされて、立ち往生してしまうのではないかと、大変緊張したのを今でも思い出します。卒業研究や工学実験の実習は企業の仕事と大きく変わらないので逆に楽しくできました。

また、クラス担任、クラブ顧問等、企業では味わえな

い仕事も経験させてもらいました。クラス担任の仕事は大変でしたが、担任をした時の卒業生たちが退職を迎えるにあたり労いの言葉をかけてくれたり、訪ねてくれたり、慰労会を計画してくれたり、今になってみれば良いことばかりです。クラブ顧問では特にロボコン部の顧問の時、学生たちのがんばりで全国大会出場を果たし、国技館に引率したことは大変良い思い出となりました。

もう一つ教員となり良かったことは高校時代の同級生や、大学時代の恩師や先輩、会社員時代の同期と再会を果たせたことです。一般の企業に勤務していると社外の人と連絡を取るのになかなか難しいのですが、学校という公共性がありオープンな場所は気軽に連絡が取れるし、連絡が来ることもあります。

以上、長い職業人生で一般企業では味わえない経験を沼津高専で味わうことが出来ました。最後に、至らない点が多々あったと存じますが、在職中は大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



「ありがとうございました」

総務課課長補佐
神田 貴由

平成31年3月31日をもって定年を迎えます。月並みですが振り返れば、日本国有鉄道の民営分割に伴い、昭和62年4月に文部科学省の沼津高専に採用していただき32年が経ちました。その間に年号は平成となり、平成16年には、国立学校も独立法人化され身分も国家公務員から法人職員に、手堅く変わる事など無いと思っていた2つの勤め先が形態を変えて、歴史に残る大災害も数多くあった「平成」最後の年に定年。これと言って特に秀でた能

力があるわけでもない平凡を絵に描いたような私が、大過なく定年を迎えることが出来るのは、家族や両親、先輩、同僚、後輩の、多くの人に恵まれていたこと、このことに尽きるように思います。

過ぎてしまえば、瞬く間に感じることも、事が始まる前の緊張や期待や不安、様々な時代や環境の変化それを積み重ねて、ここまで来たことを思う時、自分にも「頑張ったね」と言ってあげたいと思います。

私の人生ももう少し続きます。時代や環境の変化も続くと思いますが、感謝を忘れずやって行こうと思います。

最後に、沼津高専や、係わっていただいた数多くの方々（本来ならばお一人お一人お名前を挙げるべきところですが、文字数が足りないのです、すみません。）、そして過ぎて来た時間に、心より御礼申し上げます。「ありがとうございました」。



定年退職を迎えて

学生課課長補佐
室 伏 啓 二

これまで定年退職を迎える多くの諸先輩方を見送ってきましたが、とうとう見送られる側になりました。昭和55年（1980年）8月に庶務課（現在の総務課）に採用されてから、人事交流で静岡大学に外向した3年間を除く、36年間、教職員の皆様には大変お世話になり心より感謝申し上げます。

採用当時、私はまだ大学4年生でしたが、事務職員として働きながら、翌年3月には何とか無事に卒業することが出来ました。（出席日数は？おおらかな良き時代でした。）

当初、人事係に配属となり、その後も主に人事・総務系の仕事を中心にしてきましたが、平成20年（2008年）

8月から現職に配属され、最後は10年以上学生課にお世話になることとなりました。

高専生活を振り返ると、様々な出来事がありましたが、特に印象に残っているのは、平成16年（2004年）4月の国立学校の法人化です。当時、私は人事係長として労務管理を担当しており、「国家公務員法」、「人事院規則」から「労働基準法」、「労働安全衛生法」への移行業務を経験することとなりました。（国家公務員から独立行政法人職員に!!私にとってはかなりショッキングな出来事でした。）

学生課では主に入試や国際交流を担当し、慣れない業務で教職員の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、学生や外国人留学生との交流も経験させていただき、楽しい思い出となりました。

最後になりますが、多くの思い出を作ってくださいました教職員、学生、保護者の皆様方のご健康とご活躍を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。

長い間、本当に有り難うございました。

卒業生・修了生から

高専で学んだもの

機械工学科
乗 松 慧 生

高専本科での長いような短かった5年間が間もなく終わろうとしています。高専での5年目というのは、ほとんどの学生が成人にあたる年です。私にとっては、卒業にあたる本年は一層大きな節目の年になるので高専生活を簡単に振り返りながら、お世話になった方々に感謝を

示したいと思います。

私が高専生活で学んだ最大のもの、自学自習の方法です。私は2年次から4年次にかけて、寮の学習サポートの役員を務め、寮における学習環境向上や勉強会といった活動を、5年次では学校で学習支援活動をしました。それらを通して、自分が理解したものを相手にわかりやすく伝え理解してもらうことの難しさと自学自習の大切さを学びました。特に、自学自習については、1日の勉強スケジュールを細かく決め目標を設定し、常にそれが達成できるように心掛けました。また、勉強を進める中でわからないことがあれば担当の先生へ直接聞きに行き、

“わからない”を確実に解決するようにしました。

試験や課題、実験・実習レポートは、大変なときもありましたが、熱意ある先生方のもと手厚く指導していただき、学問の奥深さとおもしろさを知ることができました。どの活動をとっても、友人や後輩、先輩方、先生方、その他多くの方々の支えなしには得られることのできなかった素晴らしい経験でした。また、家族にも非常に感謝しています。私が5年間の高専生活をなんの滞りもな

く楽しく過ごすことができたのは、いついかなるときであっても支えてくれた家族のおかげです。今春には大学編入となり、まだまだ両親への恩返しはできませんが、学生として勉学に励み活躍の知らせを伝えられたらと思います。

先生や先輩をはじめとする多くの方々に支えられて得た5年間の経験をこれからに活かし、頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

飛びたがりのさなぎ

電気電子工学科5年
高橋 広 樹

フィーリング。中学生の時高専を選んだ理由です。明確な目標はなく、友達から高専のことを聞いて公立高校とは違う何かに魅力を感じました。今、過去の自分に会えるのならば抱きしめて讃えたいです。

寮生活、学校生活では全てをさらけ出せる友達ができ、頼りになる後輩、尊敬する先輩ができました。この文を書いていると様々なことを思い出してしまい、何を書いて良いかわからなくなりますね。ここで思い出を振り返り、お世話になった人に感謝を述べても良いですがそれは直接言うことにして、今回は普段絶対に言わないようなことをこの場を借りて述べたいと思います。

今読んでくださってる人もそうでない人も親がいると思います。私の親はいわゆるシングルマザーであり、女手一つで私を育ててくれました。兄弟がいなかったため二人での生活です。喧嘩をしてしまうと会話がなくなり、私はあまり家では喋らないので静かな空間が広がります。私の親はプライドが高く、とても過保護です。おそらくほとんど

の親はそうだと思うのですが、私の親は特にそれが強いと思います。時折うんざりしてしまい、会話をしない日も多々あります。私もまた変わった子供で親にたくさん迷惑をかけてきたと思います。しかし、20歳になり、子供一人育てる大変さや働く大変さを知り、親のありがたさを知りました。直接言うことは恥ずかしいのでこの場を借りて言わせていただきます。母ちゃん、いつもありがとう。

こうして卒業を間近に感じるようになると一歩次のステップへ駆け上がるような気がします。こうして大人になるのでしょうか。しかし私はふと疑問に思いました。大人とは一体何でしょうか。一人で自立できるようになること、働き始めたならなど意見はあると思います。しかし私はそのどの意見とも違います。私は、大人とは責任を持てるようになることだと思います。学生の間は問題を起こした時などはそこまで責任を負わされることは少なく、親や教師の方々が責任を持つことが多いです。また社会人になったとして、新人の頃は失敗をした時、上司の方や指導者の方が責任を持ちます。私は早く大人になり、責任をもてるようになり、親に恩返しをしたいです。いわば私はタイトルにつけた通り「飛びたがりのさなぎ」です。最後に、高専生活を支えてくれた友達、後輩、先輩、先生方、祖父母、親、本当にありがとうございました。

「高専をやめるのをやめて」みたら…

専攻科 新機能材料工学コース2年
村松 央 教

2年前、5年生の終業式で勝山先生が「高専をやめるのをやめました」とおっしゃった翌月、わたしも「卒業」したはずの高専にいました。当時は、「高専をやめるのをやめて」よかったのだろうか、専攻科進学よりも大学に編入した方が良かったのではないかと、正しい選択なのだろうかと考えることがありました。早いものでそれから2年が過ぎ、7年間の在学を経て高専からやっと「卒業」します。

専攻科では、長期インターンシップで今春からお世話になる大学院の研究室で4ヶ月間研究をして、大学院の研究室の雰囲気を感じる事ができました。また、高専

機構主催の海外研修(ISTS2018)では、他高専の専攻科生との交流とともに、海外の学生と協力して課題解決にあたりました(自分の英語力の低さを実感してしまいました…)。ほんの少し振り返るだけでも高専でこそ経験できることをいろいろとやってきたのだと実感します。

研究面では、本科から継続して3年間、触媒の研究をしてきました。研究室に入った当初、論文がまともに読めずに雑誌会や研究報告会でボコボコにされましたが、今では懐かしく思うのと同時に、その後の自分の成長が実感できます。それでもなお、研究者として手本となる稲津先生からは学ぶことが未だに多くあり、自分が未熟なのを実感します。先生とディスカッションをすると自分の視野がまだまだ狭く、より色々なアイデアを得るためにも文献調査や日々の学習をしなくてはと実感しています。先生と比較すると自分のできることの圧倒的な少なさも痛感します。今春からの大学院生活でも、日々多くのものを吸収して、研鑽していきたいと思っています。

「高専をやめるのをやめた」結果として、優れた大学院に、かつ魅力あふれる分野で世界を牽引する研究室に進学できました。専攻科での学生生活で多くの学びと経験が得られたことを考えると、進路の選択肢としては、や

はり良かったのだと思います。最後にこの場を借りて、長らくお世話になった先生、職員、友人、後輩のみなさまに心から感謝を申し上げます。

私の高専時代



私の高専時代

電子制御工学科
遠山和之

電気電子工学科の前身、電気工学科の17期生として私が沼津高専に入学したのは今から40年前の昭和53年4月である。高専での5年間は、実家が浜松だったこともあり寮で生活した。1年生の頃は、6時30分に起床して7時に点呼。その後、ラジオ体操と清掃。7時30分から食事、8時15分ぐらいには登校する日々だった。土曜日も午前中授業があった。7限目が終わるのが16時05分。16時30分から18時までが部活。バスケットボール部の練習は、1時間30分であったが厳しかった。練習後は、先輩たちの練習着の洗濯と飯の支度。食事は5分で済ませ、すぐに風呂。19時55分の点呼には、いつも滑り込みセーフの状態だった。この目まぐるしい日課に慣れ、自分のペースを作れるようになったのは、高専3年生ぐらいになってからのような気がする。1年生の時は成績も芳しくなく、父に部活を止めるように言われた。そのとき顧問の三ツ井先生に「止めないで、休部すればいい。」と助言され半年間休部した。何とか2年に進級でき、部活にも戻ることができた。何がきっかけだったかまでは覚えていないが、それから寮では勉強できないと悟り、授業中にノートをまとめるように心がけた。実験レポートも実験前に書けるところは書いておいた。昼休み校舎から

寮食堂に向かうちょっとした時間で、午前中の授業の復習をした。別にノートを持ち歩いて寮食堂に向かったわけではなく、頭の中で授業中にノートに記した内容を思い出すぐらいのことなのだが、このちょっとした心掛けのおかげで成績は良くなり、4年の頃には同級生からノートを貸してくれと言われるぐらいになった。人に負けない気持ちが強かったのかもしれない。卒業するまで、よく続いたものだと思う。

話は変わるが、電子制御工学科棟ができる前、校舎の中庭には池があった。魚がいたのかどうかまでは覚えていないが、ときどきその景色を思い出す。電気工学科の建物も耐震工事前までは、クランク状の廊下があり、少し複雑な構造の校舎だった。窓も今のようなサッシではなく、堅牢で、青いペンキで塗られた窓枠が印象的だった。第2体育館ができたのは高専3年生の時。それまで第2体育館があったところは校舎地区とグラウンドを結ぶ坂道で、部活のときは、そこをダッシュした。3年生まで制服で、詰襟には、校章と所属学科を示すバッジがあった。学年カラーがあり、昭和53年入学生の学年カラーは黄色だった。この学年カラーは実は今も引き継がれており、平成30年度は黄色である。

定年まであと7年。16で浜松の地を離れたとき、こんなに長く沼津で過ごすことになるとは思ってもよらなかった。「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」という井形校長の遺訓や国語の市川先生が5年の年月を作詞した校歌の「若き日の五つ年今ぞ」というフレーズ。現役の頃は何も感じなかったが年を重ねるほど若干目頭が熱くなる言葉になった気がする。

学生の研究活動 (2018.4.1~2019.3.31)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
M5	○ 三谷祐一朗 中澤 新吾 外園 玲央 西 由季央	沼津工業高等専門学校研究報告, 第53号 (2019), pp.7-14	マイコンを用いたリレー・シーケンス制御の学習の試み	三谷祐一朗

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
AC2	○ 上 泰 田中 椋祐 三谷祐一朗 延山 英沢	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌), Vol.139 No.4 (2019), pp.1-7	入出力信号から構成した有限個周波数応答モデルによるPI-D制御系の設計 備考:採択済,掲載予定	三谷祐一朗
EC2	○ 齋藤 亮 山本 拓也 道木 慎二 大沼 巧	電気学会論文誌D (産業応用部門誌), 掲載決定	埋込磁石同期モータの拡張誘起電圧モデルに基づく低速域位置センサレス制御の信号重畳に対する効率評価	大沼 巧
D5	○ 志田 来暉 加藤 亮大 酒井 燈高 鈴木 祥高 鈴木 雄介 鈴木 静男	富士学研究, 15巻 (2019) 16-20	富士山周辺におけるソーシャルデータを用いた観光ポテンシャルマップの作成	鈴木 静男
M E D I C L 専攻科	○ 鈴木 静男 喜多 和 寺嶋 茜 上柳舞弓花 佐野友里花 宮川 綾音 蔭山 夏美 高山 ゆりえ 西村 賢治 渡邊 志保 澤井 洋 跡部 千慧 澤渡 千枝 藤本 晶	日本高専学会誌, 23巻 (2018) 45-52	JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム事例: 理系女子夢みっけ応援プロジェクト in しずおか “身近にいます理系女子, 将来の自分を想像しよう!” シンポジウム in 三島	鈴木 静男
MC2	○ 藤尾三紀夫 櫻庭 拓海 中野齊可太	Proc. of 21st International Symposium on Advances in Abrasive Technology (ISAAT2018), 2018, 87	Development of an On-machine Polishing CAM sytem Based on Five-Axis Control - Application Result to Convex Surface -	藤尾三紀夫
MC2	○ 藤尾三紀夫 小池 志歩 岩田 和磨	Proc. of 17th International Conference on Precision Engineering (ICPE2018), 2018, A-2-2	Development of a System to Monitor Dementia Patients in a Hospital Using Depth Sensor- Detection of Bed Side Rail Statuses -(Best Paper Award) 最優秀論文賞受賞	藤尾三紀夫
MC2	○ 小池 志歩 藤尾三紀夫	沼津高等専門学校研究報告 (第53号)	患者の動向監視支援システムの開発	藤尾三紀夫
MC2	○ 櫻庭 拓海 藤尾三紀夫	沼津高等専門学校研究報告 (第53号)	オンマシン自動磨き加工用5軸CAMシステムの開発	藤尾三紀夫
MC2	○ 佐野 翼 加藤 誠基 大林 千尋 藤尾三紀夫	沼津高等専門学校研究報告 (第53号)	生体信号を用いたユーザ指向型上肢トレーニング装置の開発	藤尾三紀夫
MC1	○ 芳野 恭士 杉本 奈央 塩川阿子香 芳野 広起 後藤 健太 清水 篤	技術・教育研究論文誌, 25巻(1&2号), pp.37-45	香煎茶のポリフェノール成分における抗酸化作用	芳野 恭士
C5	○ 芳野 恭士 芳野 広起 真壁 勇那 清水 篤	沼津高専研究報告, 53号, pp.47-51	香煎茶の2型糖尿病モデルマウスに対する影響	芳野 恭士

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

第1回 月光ラボ研究発表会 ～みんなで科学の扉を開こう～
 月光天文台/2018.4.22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C2	萩 倉 深 月	ダイヤモンドダストを作ろう	大川 政志
C2	久 我 五 葉	ダイヤモンドダストを作ろう	大川 政志

The 14th International Conference on Motion and Vibration Control
 Daejeon Convention Center, Korea/2018.8.5-8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	田 中 椋 祐	Non-contact Conveyance Control System with Self-identification Function of the Levitation Object -Investigation of Stability of the Conveyance Control System-	三谷祐一郎

平成30年 電気学会 電子・情報・システム部門大会
 北海道大学 工学部/2018.9.5-8

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	田 中 椋 祐	非接触搬送制御システムにおける有限個周波数応答モデルを用いた制御系の有効性の検証	三谷祐一郎

日本機械学会 2018年度年次大会
 関西大学 千里山キャンパス/2018.9.9-12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	松 井 陽 樹	自律同定機能を有する非接触搬送制御システムの安定性の検証	三谷祐一郎

先進的技術に関するシンポジウム
 豊橋技術科学大学/2019.3.7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	松 井 陽 樹	非接触搬送システムにおける有限周波数応答データを用いた振れ制御系の設計と実装	三谷祐一郎

第50回学生会卒業研究発表講演会
 岐阜大学/2019.3.6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	外 園 玲 央	PLCを用いた小型倒立振り実験装置の開発および同期制御	三谷祐一郎

第56回燃焼シンポジウム
 堺市産業振興センター/2018.11.14~11.16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	鈴 木 圭 吾	高純度Mg ₂ Siの燃焼合成のための最適条件の検討	新 富 雅 仁

日本機械学会 山梨講演会2018
 山梨大学工学部/2018.10.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	鍋 倉 大 貴	CFRPのねじ締結体のボルト軸力挙動に及ぼす温度および吸水の影響	小 林 隆 志
EC2	後 藤 柊 吾	ヘリウムディテクターを用いたガスケット付きフランジ締結体の微少漏えい測定	小 林 隆 志
EC1	野 木 遼 亮	マスフローメータを用いた配管フランジ締結体の漏えい開始の測定	小 林 隆 志

日本機械学会 熱コンファレンス2018
富山大学/2018.10.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	鈴木 隆 成	ダイキャスト冷却時間短縮を目指した冷却装置の開発	喜多 和

第24回高専シンポジウム
小山工業高等専門学校/2019.1.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	木 俣 亮 平	熱拡散現象の可視化を目的としたマイクロ流体デバイスの開発	喜多 和
M5	鈴木 隆 成	ダイキャスト冷却時間短縮を目指した冷却装置	喜多 和
D5	上野山 翔 太	ロボカップJr.を通じたプログラミング教育	川上 誠
D5	塩 崎 智 也 櫻 井 海 斗	ロボカップJr. サッカー競技用ロボットの開発	川上 誠
S5	芹 澤 歩 弥	患者の動向監視支援システムの開発－転落の認識について－	藤尾三紀夫
S5	大 塩 晃 平	オンマシン磨き加工用5軸CAMシステムの開発 －磨き表面性状のブラシ径による違いについて－	藤尾三紀夫

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2018
ふじさんめっせ 富士市産業交流展示場/2018.11.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	赤 羽 健	生体信号計測に基づくバスケットボールにおける3ポイントシュート解析 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	石 川 仁	橋梁下面における作業員負荷軽減ロボットの開発 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	大 村 陸	Mocapと筋電センサを用いたテニスにおけるフォアハンドストローク解析 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	関 原 終	可操作度を考慮した協調動作を可能とする超音波診断支援ロボットの設計	青木悠祐
D5	田 中 健 太	超音波断層像処理に基づく体動補償システムの構築 優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	三 浦 凜太郎	OST-HMDを用いた超音波診断支援システムの構築	青木悠祐
MC2	小 池 志 歩	患者の動向監視支援システムの開発	藤尾三紀夫
MC2	櫻 庭 拓 海	オンマシン自動磨き加工用5軸CAMシステムの開発	藤尾三紀夫
MC2	佐 野 翼	生体信号を用いたユーザ指向型上肢トレーニング装置の開発	藤尾三紀夫
AC2	渡 辺 龍 生	アンモニア分解用担持金属触媒のキャラクタリゼーション	稲津晃司
AC2	山 木 海 人	茶樹(Camellia sinensis)の形質転換法の開発 優秀ポスター賞	古川一実
MC1	後 藤 健 太 真 壁 勇 那	香煎茶の脂質吸収抑制作用	芳野恭士

平成30年電気学会基礎・材料・共通部門大会
イーグレ姫路(兵庫県姫路市)/2018.9.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	野 田 剛 志	変位電流バイパス法による交流高電界下での空間電荷層の推定	遠山和之

平成30年電気学会産業応用部門大会
横浜国立大学/2018.8.28-30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	鈴木 昭 義	IPMSMの最大トルク制御座標上における電流制御系のゲイン設計	大沼 巧
EC2	山本 拓 也	パラメータ変動の大きなIPMSMにおける最大トルク制御座標系の位相測定法	大沼 巧

平成31年電気学会全国大会
北海道科学大学/2019.3.12-14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	塚本 笙	周期的速度変動抑制制御への最大トルク制御座標系の適用	大沼 巧
D5	鈴木 皓 仁	IPMSMの仮想磁束による最大トルク制御座標の推定	大沼 巧
EC1	鈴木 昭 義	最大トルク制御座標上におけるカスケード型ベクトル制御系の設計	大沼 巧
EC1	山本 拓 也	トルク脈動を利用した最大トルク制御座標系の位相測定系設計	大沼 巧

International Workshop on Data Science 2018 - Present & Future of Open Data & Open Science -
三島市民文化会館/2018.11.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	山路 倍 弘	Preliminary application of results in Japanese historical character recognition by machine learning to locally historical documents	鈴木 静 男
D5	大勝 友 晶	Preliminary estimation of tea leaf quality using remote sensing techniques in Numazu city	鈴木 静 男
D5	落合 良 亮	Preliminary classification of Japanese cedar forests with aerial photographs using machine learning approach	鈴木 静 男
D5	海野 真 乙 片岡 駿 介	Preliminary estimation of the aesthetic value of cultural ecosystem services by mapping geotagged photos from social media data around Mt. Fuji and Izu Peninsula	鈴木 静 男
D5	村田 航	A Study on Speaker Discrimination Using Machine Learning	鄭 萬 溶
D5	峯 慎 平	A Study on Speaker Discrimination Using Deep Learning	鄭 萬 溶
D5	樋口 健	A Study on Tapping Diagnosis of Structures Using Machine Learning	鄭 萬 溶
D5	金澤 滉 典	Development of Traffic Flow Data Measurement System by Drive Recorder	鄭 萬 溶
D5	坂下 尚 史	Optimization of Pipe Support Arrangement by Machine Learning	鄭 萬 溶
AC2	山木 海 人	Genomic analysis in somatic embryogenesis of tea plant(camellia sinensis)	古川 一 実

地理情報システム学会
首都大学東京/2018.10.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	諏訪 尚 也	空中写真を用いた竹林の自動識別	鈴木 静 男
AC1	清水 香 樹	海岸林面積はどのように変化したか：三保松原及び千本松原を例にして	鈴木 静 男
MC1 D5	石田 智 士 大勝 友 晶	沼津市茶園におけるリモートセンシングの予備的調査	鈴木 静 男

日本茶業学会

島田市民総合施設プラザおおるり/2018.11.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	諏訪尚也	ドローン(マルチ回転翼型無人航空機)の空撮によるチャ病虫害被害の実態把握の試み-第3報 発生程度別マッピング画像の作成-	鈴木静男

富士学会

日本大学国際関係学部(三島市)/2018.10.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	清水香樹	三保松原及び千本松原におけるクロマツとそれ以外の樹種に着目した海岸林面積の経年変化	鈴木静男

日本機械学会Dynamics & Design Conference 2018(機械力学・計測制御部門講演会)

東京農工大学/2018.8.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	日原 究	ドライブレコーダによる交通流データ取得システムの開発	鄭 萬 溶
EC1	菊澤雅哉	定点カメラを用いた交通流計測システムの開発	鄭 萬 溶

日本機械学会モード解析研究会

徳島大学/2019.1.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	峯 慎平	Speech Emotion Recognition Using Deep Neural Network and Extreme Learning Machine(文献紹介)	鄭 萬 溶
EC1	金澤滉典	SSD: Single Shot Multi Box Detector(文献紹介)	鄭 萬 溶

2019 Asia Pacific Information Technology Conference (APIT 2019)

Hotel Regent Marine the Blue, Jeju Island, Korea/2019.1.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	菊澤雅哉	Development of Traffic Flow Measurement System Using Fixed Point Cameras	鄭 萬 溶

日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2018 in Kitakyushu

北九州国際コンベンションゾーン/2018.6.2-5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	高橋元太	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる協調動作のための操作力・生体信号計測に基づく意図推定	青木悠祐
MC1	田中哲太	超音波診断における臓器追従のためのビジュアルフィードフォワード制御系の提案	青木悠祐
MC1	部谷若菜	超音波診断支援のためのメンタルローテーション能力の可視化	青木悠祐

第19回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会

大阪工業大学/2018.12.13-15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	高橋元太	超音波診断・治療補助ロボットによる協調動作のための検査者データ解析に基づく意図推定	青木悠祐
MC1	田中哲太	ロボットによる超音波診断支援のための体動・プローブ走査補償系の構築	青木悠祐
MC1	部谷若菜	超音波断層像処理による音響窓可視化を用いた診断支援システムの構築	青木悠祐

The 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics (ISEM2018)
山梨大学甲府西キャンパス/2018.8.29

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	小池志歩	Development of a System to Monitor Dementia Patients in a Hospital Using Depth Sensor-Detection of Turning Over and Falling Down from the Bed -(Encouragement Award)	藤尾三紀夫
MC2	櫻庭拓海	Development of an On-machine Polishing CAM System based on Five-Axis Control -Result of Basic Experiment for Arc Surface-(Encouragement Award)	藤尾三紀夫

第23回知能メカトロニクスワークショップ(IMEC2018)
沖縄工業高等専門学校/2018.9.2-4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	櫻庭拓海	オンマシン自動磨き加工用CAMシステムの開発 -凹型曲面の磨き加工実験について-	藤尾三紀夫
MC2	小池志歩	患者の動向監視支援システムの開発 -ベッド外での転倒状態の検出-	藤尾三紀夫
MC2	佐野翼	生体信号を用いたユーザ指向型上肢トレーニング装置の開発	藤尾三紀夫
MC1	青野新大	患者の動向監視支援システムの開発-患者パラメータの自動調整機能の開発-	藤尾三紀夫

精密工学会 第26回 学生会員卒業研究発表講演会
東京電機大学東京千住キャンパス/2019.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	大塩晃平	オンマシン磨き加工用CAMシステムの開発 -磨き表面性状のブラシ径の違いについて-	藤尾三紀夫
S5	芹澤歩弥	患者の動向監視支援システムの開発-患者の転落状態の認識について-	藤尾三紀夫
S5	内山友樹	機械学習を適用した小径穴内面の表面性状評価手法の検討	藤尾三紀夫

2019年度精密工学会春季大会学術講演会
東京電機大学東京千住キャンパス/2019.3.13-15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	櫻庭拓海	オンマシン自動磨き加工用5軸CAMシステムの開発 -凹凸円弧面の磨き加工について-	藤尾三紀夫
MC2	小池志歩	患者の動向監視支援システムの開発-呼吸状態の検出-	藤尾三紀夫
MC2	佐野翼	生体信号を用いたユーザ指向型上肢トレーニング装置の開発	藤尾三紀夫

日本育種学会第134回講演会
岡山大学/2018.9.23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	山木海人	ボンバードメント法による茶樹の形質転換は二次胚誘導条件により効率化する	古川一実

第122回触媒討論会
北海道教育大学函館校/2018.9.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	伊藤広貴	混合金属酸化物担持ルテニウム触媒のアンモニア合成活性	稲津晃司
AC2	村松央教	混合金属酸化物担持ルテニウム触媒のアンモニア合成活性	稲津晃司

3rd STI-Gigaku 2018
長岡技術科学大学/2018.10.5-6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	守屋明紀	Synthesis of Cholesterol-bearing Hyaluronic Acid-SiO ₂ Hybrid Hydrogel	山根説子

電気学会基礎部門大会
姫路大学/2018.09.04

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	田代治己	光電界センサによる衝突ESD現象の観察	大津孝佳

第8回CSJ化学フェスタ
タワーホール船堀/2018.10.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	宮下昂大	鉄-コバルト酸化物触媒を用いたアンモニア合成	稲津晃司
AC2	村松央教	セリウム含有酸化物担持ルテニウム触媒上でのアンモニア合成における担体効果	稲津晃司

第26回育種学会中部地区談話会
愛知教育大学/2018.10.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	井出莉那	ニホンハッカ(薄荷: <i>Mentha arvensis</i>)の細胞育種の試み	古川一実
C5	稲葉蒼一郎	緑茶品種の不定胚誘導を目的としたin vitro挿し木および葉表皮培養	古川一実
C5	望月秀斗	チャ(茶樹)の形質転換におけるアグロバクテリウムの過剰増殖と抗菌作用	古川一実
AC2	山木海人	チャ(<i>Camellia sinensis</i>)の二次胚形成能を利用した形質転換および培養物の発現解析	古川一実

日本コンピュータ化学会2018秋季年会
弘前大学/2018.11.4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	杉山弥	MD法によるMFI及びMEL型SiO ₂ 組成ゼオライトの熱的挙動の研究	大川政志

第25回電気学会東京支部静岡東部・山梨支所研究発表会
東芝キャリア(株)富士工場/2018.11.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	西郷魁人	二相同期リラクタンスマータの適応制御	高野明夫

2018第28回RCJ信頼性シンポジウム
大田区産業プラザ/2018.11.27-28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	藤田真太郎	大気圧プラズマ装置を用いた非接触式人体除電装置の研究 奨励賞受賞	大津孝佳
EC2	田代治己	光電界センサによる衝突ESD現象のタイムドメイン測定	大津孝佳

材料技術研究協会

日大理工学部駿河台キャンパス/2018.12.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	北村 優人	側鎖に芳香族置換基を有するジアリルアミンポリマーの分子構造 ポスター賞奨励賞	青山 陽子
C5	杉山 瑛	プラスチック熱分解油の成分分析と無害化 ゴールドポスター賞	青山 陽子

動物学会東海支部高校生ポスター発表

名古屋大学/2018.12.08

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D2	鈴木 檀	駿河湾沼津の深海200～500mの映像観察 奨励賞受賞	大津 孝佳
E1	荒川 琉平	駿河湾沼津の深海200～500mの映像観察 奨励賞受賞	大津 孝佳
E1	廣野 忍	駿河湾沼津の深海200～500mの映像観察 奨励賞受賞	大津 孝佳
S1	浦田 楓真	駿河湾沼津の深海200～500mの映像観察 奨励賞受賞	大津 孝佳

第一回日本遺伝学会春期分科会

国立遺伝学研究所/2019.03.08

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	井出 莉那	ニホンハッカの組織培養におけるホルモン応答の品種間差	古川 一実
C5	渡辺 麻彩	チャとツバキの雑種細胞におけるツバキ染色体の検出	古川 一実
AC2	山木 海人	ボンバードメント法によるチャ不定胚の形質転換法の開発および 遺伝子導入機構の調査	古川 一実

日本育種学会第135回講演会

千葉大学/2019.03.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	渡辺 麻彩	CHIASIVを用いたチャとツバキの種間雑種における染色体構造解析	古川 一実

日本化学会第99春季年会(2019)

甲南大学 岡本キャンパス/2019.3.16-19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	勝亦 優斗	アンモニア合成条件下での炭素担持ルテニウム触媒からのメタン発生	稲津 晃司
C5	渡邊 颯汰	アンモニア合成条件下での炭素担持ルテニウム触媒からのメタン発生	稲津 晃司
AC1	宮下 昂大	固定化Rh錯体-第四級アンモニウム塩触媒による 末端シリル化アルキルカーボネートのワンポット合成	稲津 晃司
AC2	村松 央教	セリウム含有酸化物担持ルテニウム触媒を用いたアンモニア合成	稲津 晃司
AC1	増田 裕	シリカー疎水化ヒアルロン酸複合ヒドロゲルの合成	山根 説子
MC2	植田 恵梨	疎水化ヒアルロン酸による熱変性タンパク質の複合化と放出	山根 説子
MC2	守屋 明紀	リン酸カルシウムの複合化による 疎水化ヒアルロン酸粒子からのタンパク質の放出抑制	山根 説子

平成30年度卒業生・修了生進路先一覧

平成31年2月25日現在

機械工学科

40名

就職先企業

28名

米久株式会社	1
一般社団法人日本建設機械施工協会施工技術総合研究所	1
花王コスメプロダクツ小田原株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	2
キャノン株式会社	1
シチズン電子株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社	1
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1
株式会社日立プラントコンストラクション	1
東プレ株式会社	1
高砂香料工業株式会社	1
興和株式会社	1
テルモ株式会社	1
日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社	1
株式会社SUBARU	1
株式会社小田原エンジニアリング	1
東芝機械株式会社	1
水ing株式会社	1
川崎重工業株式会社	1
株式会社小糸製作所	1
日立建機日本株式会社	1

オーエスジー株式会社	1
株式会社 小松製作所	1
ベックマン・コールター株式会社	1
株式会社日立ハイテクサイエンス	1
出光興産株式会社	1

進学（編入学）先大学等

12名

北海道大学工学部	1
東北大学工学部	1
千葉大学工学部	1
横浜国立大学理工学部	1
信州大学経法学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
豊田工業大学工学部	1
岡山大学工学部	1
琉球大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3

電気電子工学科

41名

就職先企業

22名

東芝プラントシステム株式会社	2
株式会社ヤクルト本社	1
米久株式会社	1
株式会社明治	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
株式会社日立ハイテクサイエンス	1
シチズン電子株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社明電エンジニアリング	1
東芝キャリア株式会社	1
株式会社小糸製作所	1
パナソニックITS株式会社	1
中部電力株式会社	1
静岡ガス株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	1
株式会社テクノサイト	1
株式会社 TwoGate	1
東海旅客鉄道株式会社	1
日本空港テクノ株式会社	1
森ビル株式会社	1
株式会社ヤマハビジネスサポート	1

進学（編入学）先大学等

17名

筑波大学理工学群	1
群馬大学理工学部	1
東京農工大学工学部	2
電気通信大学情報理工学域	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
首都大学東京都市教養学部	1
横浜国立大学理工学部	2
長岡技術科学大学工学部	2
山梨大学工学部	1
金沢大学理工学域	1
豊田工業大学工学部	1
三重大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	2

その他

2名

卒業後に留学希望	1
沼津工業高等専門学校研究生	1

電子制御工学科

41名

就職先企業

20名

矢崎総業株式会社	2
東海旅客鉄道株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
ANAベースメンテナンステクニクス株式会社	1
株式会社明産	1
富士フィルムメディカル株式会社	1
株式会社日立システムズ	1
トヨタ自動車東日本株式会社	1
株式会社アイ・エス・ビー	1
東芝キャリア株式会社	1
株式会社アイエイアイ	1
株式会社テクノサイト	1
JR東日本株式会社	1
株式会社明電舎	1
ソニーエンジニアリング株式会社	1

日本ビソー株式会社	1
東海電子株式会社	1
キャノン株式会社	1
富士ソフト株式会社	1

進学（編入学）先大学等

20名

東北大学工学部	1
筑波大学情報学群	1
新潟大学工学部	4
名古屋大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	4
九州大学芸術工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	8

その他

1名

進路未定	1
------	---

制御情報工学科

36名

就職先企業

15名

浜松ホトニクス株式会社	1
バックマン・コルター株式会社	1
独立行政法人国立印刷局	1
明電システムソリューション株式会社	1
チームラボ株式会社	2
キャノン株式会社	1
クノール食品株式会社	1
御殿場市役所	1
株式会社テクノサイト	1
トヨタ自動車東日本株式会社	1
ダイヤモンドヘッド株式会社	1
株式会社SBS情報システム	1
株式会社メンバーズ	2

進学（編入学）先大学等

21名

筑波大学情報学群	1
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学院	1
東京海洋大学海洋工学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
信州大学工学部	1
福井大学工学部	1
静岡大学情報学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
奈良女子大学生活環境学部	1
和歌山大学システム工学部	1
立命館大学理工学部	1
九州大学芸術工学部	1
鹿児島大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	4

物質工学科

46名

就職先企業

19名

アステラスファーマテック株式会社	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
大日精化工業株式会社	1
JXTGエネルギー株式会社	2
ポリプラステックス株式会社	1
株式会社ADEKA	1
株式会社大善	1
テルモ株式会社	1
DIC株式会社	1
エヌ・イー ケムキャット株式会社	1
クノール食品株式会社	1
株式会社リコー	1

エスエス製薬株式会社	1
旭化成株式会社	1
森永乳業株式会社	1
出光興産株式会社	1
就職希望	1

進学（編入学）先大学等

27名

筑波大学生命環境学群	2
群馬大学理工学部	1
東京農工大学工学部	2
東京工業大学生命理工学院	1
東京工業大学物質理工学院	2
東京工業大学理学院	1
東京海洋大学海洋生命科学部	1
長岡技術科学大学工学部	2

信州大学繊維学部	2
静岡大学農学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3

豊田工業大学工学部	1
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	7

環境エネルギー工学コース 10名

就職先企業 5名

株式会社イー・アイ・ソル	1
パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
三菱自動車エンジニアリング株式会社	1

東芝インフラシステムズ株式会社	1
-----------------	---

進学（編入学）先大学等 5名

横浜国立大学大学院 理工学府	1
静岡大学大学院 総合科学技術研究科	1
豊橋技術科学大学大学院 工学研究科	2
名古屋大学大学院 工学研究科	1

新機能材料工学コース 4名

就職先企業 2名

三精テクノロジーズ株式会社	1
DIC株式会社	1

進学（編入学）先大学等 2名

東京工業大学大学院 物質理工学院	1
東京工業大学大学院 生命理工学院	1

医療福祉機器開発工学コース 13名

就職先企業 9名

スター精密株式会社	1
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	2
東京コンピュータサービス株式会社	1
パナソニックITS株式会社	1
横浜ゴム株式会社	1

日立ヘルスケアシステムズ株式会社	1
MeijiSeika ファルマ株式会社	1
矢崎総業株式会社	1

進学（編入学）先大学等 4名

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	2
長岡技術科学大学大学院 工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	1

教育後援会から

平成30年度教育後援会活動を振り返って

教育後援会会長 大川 宏和

教育後援会も現体制になって、早三年目……

今年度冒頭に、

「本部、支部、部会の特色を生かした活動を活性化して行きたい。」

と提案した様々な点が具体化し、活発に活動をして来たと実感しています。

本部として

- ①更なる効率化と、あらゆる事態に柔軟に対応するため、一部規約の改正
- ②さらなる各支部、部会の活性化を図るための新たに予算付
- ③昨年度からの継承事業である、沼津高専OB牧野フライス社長をお招きして「キャリアアップ・セミナー」の実施(10/14)
- ④その他

支部として

- ①会員同士のグループ討議会等の活性化
- ②役員決めにおける工夫
- ③OB、関係者を講師として招き、体験談に基づいた講話会
- ④その他

部会として

- ①先生方、各関係各者、部会員との会議、懇談
- ②学生会役員等と合同の意見交換会
- ③学生、学校サイドから要望、意見が上がった点についての現地視察等
- ④その他

平成30年度役員として、次年度の役員の方々、関係各所と引き継ぎ、連携を確実にし、残りの月日の最後の日まで、高専の、学生の、保護者の、更なる発展に寄与して行きたいと考えております。

同窓会から

ようこそ同窓会へ

同窓会会長 木戸 実 (M6)

希望と不安を抱きながら社会へ旅立つ、今年卒業・修了の皆さん、それを見守るご家族の方々、この度は大変おめでとうございます。沼津高専で学んだこと、失敗も成功もいろいろに経験したこと、それぞれが各人自身の土壌として、これからの活動エネルギーとして活かされていくことを切に願っています。

1967年(昭和42年)に、沼津高専から第1回の卒業生が社会へ送り出されて、今年は53年目となります。その間の卒業生(同窓生)の数は九千数百名となりました。この大変多くの方々が、各科・各年代を通じて関りが持てる、繋がりをもっていけるネットワークが同窓会です。

社会へ羽ばたき、新しい仕事や新しい環境に溶け込んで、新しい生活基盤を作っていくことは当面の重要な課題です。その中で人生の足腰を強化することや、本業の仕事や生活を大きく発展させたり深めていくことも重要な取り組みでしょう。その時に大きな手助けとなるのは、違った環境の人たちとの交流です。同じ学校で最も多感な10代後半を一緒に過ごした仲間が、それぞれの道を違っ

た環境に置かれて「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」本校の校訓とともに頑張っています。その同窓生の各科・各年代を通じた繋がり(同窓会)をこれから大いに利用していただきたいと思います。

同窓会からの各種のお知らせ(同窓会総会の開催案内、イベント企画の情報案内、諸々の活動案内など)は、同窓会名簿に登録されたEメールでの通知、および同窓会HP掲載という形でご案内しています。まずは同窓会名簿へ最新情報を入力(個人別に配布したアカウントでログイン)を行ってください。

一昨年の同窓会創立50周年を記念して、高専祭の中で「卒業生による企業展示」を実施したところ大変好評を得て、これを機に昨年も実施しました。展示は各企業の製品もさることながら、説明員を務める第一線で活躍する卒業生の姿を見ていただけることが大変喜ばれました。説明員の同窓生も卒業以来初めて母校を訪れた、普段はない他社との交流が持てたなど、説明員(同窓生)にも好評をいただいています。同窓会ではこのような繋がりの方を多く作っていきたく考えています。皆様の積極的な参加をお待ちしています。併せて今後の大いなるご活躍を願っています。

お知らせ

海外留学プログラムについて

若い間に海外の文化や生活を経験することは、皆さんにとって貴重な経験になります。以下に皆さんが応募可能なプログラムを列挙します。詳細は学生課まで問い合わせ下さい。

【本校が行っているもの】

- 専攻科海外長期インターンシップ
- アメリカ異文化体験&語学研修

【本校が業者に委託しているもの】

- ニュージーランド語学研修&異文化体験

【高専機構が行っているもの】

- 国際シンポジウム (ISTS)
- 高専生のための英語キャンプ
- テクニカルチャレンジプログラム
- シリコンバレー・ジャパンユニバーシティ短期留学プログラム
- テクニカルイングリッシュセミナー inバンクーバー
- マレーシア・ペナンプロジェクト体験型研修
- マレーシア・ペナン異文化体験型研修
- デジタル信号処理ハンズオントレーニング
- オーストラリア語学研修
- オーストラリア・クイーンズランド工科大学研修
- プログラムチャレンジ inシンガポール
- 日タイ高校生ICTフェア
- オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム

【文部科学省トビタテ留学JAPAN】

- 大学生等コース
- 高校生コース
- 未来テクノロジー人材枠
- ふじのくにグローバル人材育成事業

【自治体等が実施しているもの】

- 高校生姉妹都市(カラマズー市)ホームステイ体験「沼津市」
- 友好都市(岳陽市)留学生派遣(隔年実施)「沼津市」
- 短期留学交流事業(中国浙江省内大学)「静岡県」
- 日中青少年代表交流事業「静岡県教育委員会」
- 静岡県国際交流プログラム「静岡県青年海外研修協会」
- 青年国際交流事業(世界青年の船他)「内閣府」

平成31年度前期授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生を対象に、平成31年度前期授業料免除および徴収猶予の申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 「授業料免除申請書」または「授業料徴収猶予申請書」(所定様式)を学生係へ提出する。

提出期限 平成31年3月29日(金)

所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。

※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

注意事項 1 平成30年10月1日以降に、懲戒処分(停学以上の処分)を受けた学生は免除の対象となりません。

2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係(055-926-5734)にお問い合わせください。

各種奨学金について

平成30年度に募集が行われた主な奨学金

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
1	【貸与型】 日本学生支援機構奨学金	全学年	経済的理由により修学に困難がある優れた学生	月額1万円～5万1千円(入学年度、通学形態(自宅通学・自宅外通学)によって定められた2種類の額のいずれかを選択する)	要	4月
		本科4・5年生 専攻科生		月額2万円～12万円(11種類の貸与月額から自由に選択できる)		
2	【給付型】 日本学生支援機構奨学金	本科3年生	翌年度に本科4年生への進級又は大学・短期大学・専修学校(専門課程)への進学を予定しており、以下のいずれかに該当する者 ①家計支持者が個人住民税(市町村民税)所得割を課されていないこと ②生活保護を受給していること ③次の施設等に入所等していること 児童養護施設/児童心理治療施設/児童自立支援施設/児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)を行う者/小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)を行う者/里親	月額2万円～4万円(在学中又は進学先大学等の設置者(国公立、私立)・通学形態(自宅通学、自宅外通学)により決まる)	不要	6～7月
3	天野工業技術研究所奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	4月
4	公益財団法人ウシオ財団奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内(専攻科に進学予定の者)	月額6万円	不要	4月

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
5	静岡県高等学校等奨学金	本科 1～5年生	保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者 ①生活保護を受給している ②市町民税が非課税になっている③市町民税が減額になっている ④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である	自宅通学： 月額1万8千円 自宅外通学： 月額2万3千円	要	4月
6	関育英会奨学金	本科2年生	人物・学業とも優秀かつ健康でありながら、学資の支弁が困難と認められる者	月額2万円	要	4～5月
7	あしなが育英会奨学金	全学年	保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生	月額4万5千円（貸与2万5千円、給付2万円）	要	4～12月
8	公益財団法人エンケイ財団奨学金	本科 4・5年生 専攻科生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	5月
9	イハラサイエンス 中野記念財団奨学金	本科4年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	月額2万円	不要	5月
10	川村育英会奨学金	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①生計を一とする家族の年間収入（祖父母の年金収入は除く）が500万円以下 ②成績証明書（前年度学年末時点）記載の学業成績に占める、A評価の割合が50%以上	月額2万円	不要	5～6月
11	公益財団法人タミヤ奨学会奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①国内の4年制大学に進学する者 ②学業・人物ともに優秀かつ健康な者 ③経済的理由から就学が困難な者 ④応募時の現住所が静岡県内である者 ⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者	月額2万5千円	不要	9～12月
12	公益財団法人スズキ教育文化財団 大学奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①4年制以上の大学に進学予定の者 ②向上心が強く、学業、人物とも優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に専念出来ない者 ③大学入学後、給付、貸与を問わず他のいかなる奨学金も受給しない者	月額5万円	不要	12～1月
13	沼津中央ライオンズ基金奨学金	本科 1・2年生	以下の条件を全て満たす者 ①沼津市に保護者と共に居住している者（ただし、寮生の場合は出身が沼津市内であれば可） ②品行方正、学業優秀又は一芸に秀でその道で将来を嘱望されている者で、かつ経済的援助が必要と認められる者	月額1万5千円以内	不要	11～1月
14	熱海市育英事業奨学金	全学年	以下の条件を全て満たす者 ①保護者が熱海市内に居住している者 ②翌4月に本校に在学している者又は大学（専攻科を含む）に進学する者 ③経済的理由により修学困難な者 ※その他学力・所得要件有り	本科1～5年生：月額1万9千円以内 専攻科生・大学生：月額4万4千円以内	要	11～1月
15	ビヨンドトゥモロー ジャパン 未来スカラシップ・プログラム	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①次の一つ以上に該当すること 保護者が死亡／単親家庭（母子、父子家庭等）／児童養護施設に暮らしている／里親家庭に暮らしている／生活保護受給世帯に暮らしている ②年間を通じて開催される各種プログラムに参加する意志があること ③オリエンテーション・プログラムへの参加を確約できること	年額50万円	不要	11月

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。

沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。(ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます)
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

行事予定表

2019年

- 4月** 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
クラブ紹介
1年合宿研修
1年授業参観・クラス懇談会
- 5月** 2～4年クラス懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
2020年度専攻科推薦入学試験
- 6月** 前期中間試験
防災訓練・高専大会壮行会
東海地区高専体育大会（～7月）
2020年度専攻科学力入学試験
- 8月** 一日体験入学
1～4年保護者懇談会
全国高専体育大会
寮生リーダー研修会
- 9月** 前期末試験
2年生特別研修
4年生海外研修

- 10月** 高専プログラミングコンテスト
全国高専ロボットコンテスト東海北陸地区大会
体育祭・学生総会
文化講演会
- 11月** 高専祭・体験授業
授業参観・学科説明会
全国高専ロボットコンテスト全国大会
後期中間試験
専攻科1年長期インターンシップ中間報告会

2020年

- 1月** 2020年度推薦選抜入試
専攻科2年研究発表会
- 2月** 卒業研究発表
学年末試験
2020年度学力選抜入試
終業式
寮生リーダー研修会
専攻科1年長期インターンシップ最終報告会
- 3月** 卒業式・修了式

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会（事務担当：総務係）

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp